野津原方言集 続22

野津原方言集　№２２号　《通算３２号》

表紙画……松本英明
題字……姫野順子

★　ご協力頂いた皆さん

松岡実。橋本杉平。後藤熊五郎。工藤馨。立川清男。
酒井治郎。甲斐英行。佐藤昌史。佐藤吉晴。利光節子。
岡本政雄。足立勇。波多野直人。寺司愛子。田中敏子。
豊東サツキ。波多テル子。佐藤敏子。河野公則。
内藤暁彦。斎藤キミエ。雨川元善。小野雄司。

★　使わせて　いただいた資料

野津原村報、あの日あの時、文化財調査こぼればなし、
歴史調査資料集、野津原読み語り資料、月のうた資料、
宇曾物語、野津原文化協会放送部会、司会進行資料集。

調査スタッフ　《調査収拾、編集、印刷、製本》

小野寿祐子、佐藤源治、那須政子、赤星ヨシミ。
監修　小野寿祐、赤星ヨシミ。カット　那須政子。
製本　小野寿祐、那須政子、赤星ヨシミ。、
構成　プリター　佐藤源治。

平成２８年４月吉日

野津原方言調査会
会長　小野寿祐
☎０９７＝５８８＝０５７２
☎事務局＝５８８＝００９２

★　表紙画　　故　松本英明先生の足跡　東上浦村、上浦町《いずれも当時》の職員から　同町収入役、１９７２年に上浦町長に初当選　７期２８年間務めた。９０年に大分合同新聞文化賞《地方自治》受賞された。

表紙画は水墨画が多く　即興では口紅利用もあり　請われると気軽に即座に　書いたので名刺代わりにも　なっていたよう。萩町との姉妹町交流で　小学生の田植え体験　稲藁が贈られて　豊後二見浦のしめかざりは有名　新年初日が眺められるので　参拝者も多く寒さの中で　ゼンザイの　おもてなしもあった。町の施設パンプキンの前の　潮騒や磯の香りには　旅情が恋しい夢とロマンが　四季を通じて楽しまれていた。

先生の遺筆の跡が　幸せを呼びかけてくれているようです。

〔特A〕

松本英明先生　今回の表紙画が遺筆になりました。方言調査が発足した　平成４年から長い間の　ご支援に心より感謝申し上げ　ご冥福をお祈り申します。

先生が方言集に　関わって下さったのも　当地の教諭となった方の新任地が　上浦町の小学校でした。受け持った児童が熱心で教科の　取り組みに予算がかかるのを　あえて挑戦その支援を松本町長にお願いしましたら　無理と思っていたその　予算獲得もすぐ実現する大胆な　情愛ある処置に感激した　事例をお聞きしてさすがと納得も出来ました。

いろんか事業に予算が取れる　そんな故郷発展に役立てば　動き早く上京しては名刺代わりの　水墨画を目の前で記念に渡す　心暖まる行動は行動が　故郷造と聞いて感動した　そんな部署も多かったようです。事業が進捗すれば空閑地も　利用でき海岸の埋め立てによる　町の面積も広がる　ユニークな現実は　町民の心までも動かして　町内で出来ない収入源は　外に求めて外貨を稼ぐ英知で時には年間収入が　外からの外貨で決済出来るまでに　素晴らしい経済効果に　なっていたようです。

町長７期の最終選挙には　応援にも伺い当選祝いには　駆けつけて花束贈呈もいたしました。海と山の姉妹町として　荻町との心の交流で小学生の　田植え体験や正月飾りの　豊後二見浦の新年初日に輝く　藁も運びこまれていたようです。小柄な体から湧く故郷思う情愛が　小紙冊子にまでかけて頂き　感謝この上ない想いが残ります。

上浦の施設パンプキンは勿論　荻の花温泉での再会など　想いで多いご好誼を頂いて　追憶忍ぶ時その人柄が　垣間見られます。人間とは出来ることを　熱心にしておく事　それが回り回ってその人に帰ってくるものなのです。安らかにお休みくださいませ。今一度お礼申し上げて　感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

[資3]

もくじ

ふるさとの味
フツ餅……6
フツまんじゅう……7
カンカラ餅……8
トロロ汁……9
ダンゴ汁……10
方言説明……11
こぼればなし……12
宝の玉手箱
地名……13
盆栽んすずめ……14
川　橋……15
米つき　亥の子……16
五徳　七輪……17
水、井路……18
方言説明……19
こぼればなし……20
あげな話こげな話
家庭医のおかげ……21
清正公まつり……23
吉ちやん情愛物語……25
方言説明……27
こぼればなし……28
女性ん底力
耐えてこそ幸せ報い…29
母の苦労助けたい……31
介護する身の幸せ……33
方言説明……34
街道宇曾山物語
五助の宇曾山物語……35
黒山に咲く花一輪……36
朝もや山並み映えて……37
方言説明……41
出会いと別れと……42
近時ん賑わいと里娘……43
品のいい連山姿……46
方言説明……47
お参りの連れ立ち……48
女人禁制の起こり……50
方言子どもん世界
励まされた言葉の思出…51
川が汚れたら……53
子しども遊び移り変り…55
方言説明……59
こぼればなし……60
民話　伝承
大船おろしのそよ風……61
芝居見物心和む……63
水番小屋に咲く木犀……65
方言説明……67
こぼればなし……68
あげなこげな話
よかった10年前……69
盆暮れの決算……70
子どもの行事……71
方言説明……72

あげな話こげな話
施しは報いに……７４
知らぬ事も多い人生……７５
知るしあわせ……７６
方言説明……７７
全て相手に生かされて…７８
方言単語＝
『す』⇨……７９
ちょつと一服
野津原音頭……９５
ちょいと……９７
あとがき……９９
伝言板……１００

……

はじめに

平成２２年に発行した続編１３号に　特集『２０周年』の民話、伝承、１０編を付録につけました。

野津原にいても案外　知らない事もあったと　喜んで頂きまして　年２回の発行無理なのかと　愛読者の声に呼応するように　２４年からは４月と１０月に発行に　なりました。シリーズ編が　大変気にいられたようで　今後も継続の予定です。のでご愛読よろしく　お願い申し上げます。

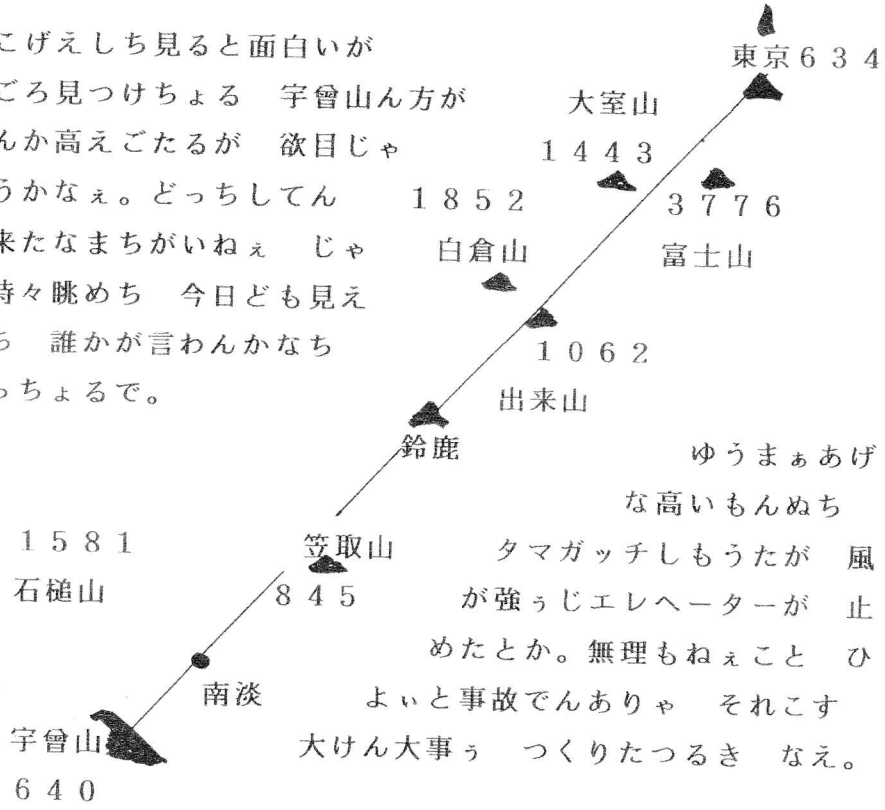
今回は『ふるさとの味』は　簡単に出来る材料も　身近くあるもので。『宝の玉手箱』には　自然が入り子どもさんの　参考にもと。『あげな話こげな話』は　新旧を織り交ぜて。『女性の底力』には　実体験の方のご苦労と　報いられた笑顔と。『宇曾山街道物語』は別府市の歴史研究家、地元の歴史識者の記憶、若い人たちの目から見た姿なども⇨２回目。７回シリーズの予定。

方言子どもん世界☞読み聞かせ、読み語りなどの資料から　など故郷を愛する状況を交えて。『民話、伝承』　ここには古い逸話、心のより所、実際にあった史実なども。『あげな話こげな話し』では　昭和１０年頃の故郷、生活習慣、子どもの夢やロマンを。人生哲学の入口にも。『ちょつと一服』ひたむきに努力する心の　姿をご披露しました。

平成２４年５月２２日《２０１２年》に　有名になった世界一高いタワー　『スカイタワー』６３４メートルが　開業となった。ちょいと考えちみると　タマガル話じゃが　野津原にある山子どもん『虫封じ』はじ　有名な宇曾山も６４０メートル　あるんで知っちょるかなぁ。

奥の院つまり本殿の　拝殿のちっと下ちゅうこち　なるんで。東京まじ直線ぬ書いたら　まっすぐにゃ見えん。途中に高い山がじゃもしよるきな。ちょいと書いちみると　濃げなふうになる。

こげえしち見ると面白いが日ごろ見つけちょる　宇曾山ん方がなんか高えごたるが　欲目じゃろうかなぇ。どっちしてん出来たなまちがいねぇ　じゃき時々眺めち　今日ども見えたち　誰かが言わんかなち待っちょるで。



ゆうまぁあげな高いもんぬち　タマガッチしもうたが　風が強ぅじエレベーターが　止めたとか。無理もねぇこと　ひよぃと事故でんありゃ　それこす大けん大事ぅ　つくりたつるき　なえ。

近ごろぁ町でんゆう　方言が使われよる。元プロ野球選手が　自分のＴシャツに　『なば』ん字を入れたんと。『ちゃーらー』とか『びったれ』『びびんこ』『よだきい』『いびしい』も　そげなふうに使われよる。嬉しいことじゃなぇ。よかった。

약초의 미

野津原村は昔かるん農村じゃつた。そりゃ自然が一杯あるもんじゃき　長閑なイノチキが約束も　されたんじゃろう。水も美しいし山と谷がチッタ高低が　あったけんどそれが又　イノチキにゃ理想的じゃつた。自然の中かる育てた物ぅ　食う事ん幸せはそこじこす健康にも過ごせた。土から育った物　水ん中じ太る物　そこに　おてんとさま　おつきさま　雨　風　空気　四季ん移り変わりも　暑過ぎず　寒過ぎず　チョウズイイキ　まぁいい事にシチョカニャナエ。両方いいんは頬かぶりじゃが。

ソゲナ環境じゃき食い物も　わりかた何でん出来よった。まぁ欲さえ張らにゃん話じゃが。日本人なだいたい　野菜を中心にした食い物が　体にゃ一番よかったごたる。時にゃ魚も捕っちくる　山ん猟ならこれもまぁ　ご馳走になる。イリコぐれなら買うことじ　役立つもんじゃき　山菜もありゃ野山ん果物も　思わん腹が満足しちくれよった。

まぁ欲さえ張らにゃこれじ　イノチキぁ出来たもんじゃき　後は欲と努力と頑張りと　知恵を出した作物づくり。山や野原や川を生かした　物造りじ贅沢ん真似ごとも　ヨクシュ張らにゃ　ケックシャよかったんじゃ　あるめーか。銭があるき物が買えると　そきー欲が顔だし　いいもんが欲しゅなるんと。

こんへんかる人間な　迷いやら見当違いやら　欲張りやらがもう競争するもんじゃき　欲しゅうがでたり　人を憎みでーたりすると　もう始末がつかんごつなる。知らんなかめー　働きよるとそりゅ見ち　ほかんしも知らんなかめ　働くもんじゃき　ふんともう騒がしいのなんの　シチヤカマシュウナル。

銭持ちがかき集め　真似しちかき集むるしもある。イレクルシもでると　騙かすしもある。正直もんな馬鹿ぅ見る。これじゃもうイレクリヤイコになる。世界がどうでん　ソゲナフニなりよりゃせんかなぁ。

ふるさとの味と魅力　　『ふつ餅』

チットぬくぅなると時のめーに　フツが芽を出し葉をひろぐる。昔かる漢方薬でんあった　だけに効能は抜群じ　塗っても付けてん食べてん　コリャモウうめー。そん香りもいいし　においがぷーとすりゃもう　ちっとぐれな傷なんか　時のめに治りよった。じゃき野原やら山じ　怪我どますりゃもぅ　『ちょいと待てやフツ取っちくるき』　びらびらつーじ行くと　美しいい所ぅネジ取っち　モミナガラへもどる。

『手じあたりゃせんじゃろう』　泣きべつ顔じ　うんち言うごつ頷いた。『よし　こんげさいだせ　ここか』　手際ゆうそん子ん襞に　ペタリンコち　そんフツだごを張りつけた。『よしこれじもう　世話ねえど』　『……』　もんだフツじゃき　そん香りが動くたんび　周りに揺れながら　広がりよる。

『こんフツぅ餅にするともうめーのや』『うん』　こんだ元気に返事した。つき餅ちゃ犬も食わんち　言うけんど好きなしゃ夏でも２つ３つは　ペロリっと退治じあぐる。腹にももたれんき後が　とてん腹動きがせん。そりー殺菌効果もあるき　医者いらずち　ゆう言いよった。

帰っちみると『隣んバアサンが　フツ餅ぅ作ったち　重箱に入れち持っち来たで』『なにや　大事ぅすんのぅ』『お前が好きち言うぬ　知っちょるきじゃこと』　『じゃなぁ　ふんとおおきにだんだん』　『また手のいる時にゃの』『じゃな　食い逃げは悪いきなえ』

フツが入っちょるき　いつまでん柔らしんき　食べいいもんじそん独特ん香りが　食欲もそそっちくれた。『もう春じゃなぁ』『又セワシュナルノゥ』　『張りこまにゃなぇ』

フツにゃちっと『アクが強いき茹でてサット水洗い』　そん後小麦粉でコネコミ　ダンゴ状態の固めに仕上ぐる。蒸すと青い色が目を香りが鼻を　魅きつけちくるる。餅につく時にゃ餅米を蒸してその中に混ぜち　仕上がるこちなる。チット塩をいるると色が　鮮やかになるんも不思議。

同じ『フツ餅』でん　蒸すたままん餅と　ついた餅じゃ歯にあたる　感触が違うが好き好みがあるし　手間がかかる　つき餅とじゃ無理もなかろう。どっちしてん風味　見た目にゃ季節感もあるき　春秋ん彼岸やら　お祝の膳　子供も喜びそうな見た目。それぞれが季節感を　醸し出しちもくるる。

見かけ　色合い　香りが引き立て　そげなんが好きな　したちが目を見張るんが　『カンカラ餅』　野山にあるカンカラん　葉っぱを座布団にしち　餅をそん上に乗せち　蒸すと餅米独特んねばりがクッツイチ　剥ぎとる感触もある。作り方は　フツ餅とあんまり変わらんけんど　座布団敷にする　独特なスタイルがケックシャ面白いんじゃねぇ。

カンカラん独特な香り　これにも殺菌作用があり　食べてもいいが　数数えた昔ん話しじゃ　どんくれ食べたじゃのうじ　旨さん評価ん点数とん　言いよったとか。『がいと食べちくれたなヨッポズ旨かったんじゃろう』となる。手間がかかるだけに　そん結果がでたんも　嬉しい賄い方ん　正直な所じゃろう。

夏どまゆう炊くもんじゃき　カンカラん葉が　見当たらん時にゃ　ドーキビん葉でんいい。これにも殺菌作用があって真夏ん食中毒かる皆んなを　守っちくれた神仏様ん　ご加護ん証でんあろう。自然を大事にした　百姓たちん気持ちに　チットデン加勢する神仏ん　施しじゃつたんかん　知れんち思うと　世の中ゆう出来たもんしゃ。

餅が乗るぐれーん　幅に切つちゃ乗する。せいろん中じゃ行儀ゆう並ぶ。火もやしん仲間ぇ　餅作りん切れ端ぅ　竹に巻きつけち　火の中んオキに入れちょくと　すぐ具合うゆう焼くるる。チット焦げたぬ口ぃくわえち　引き脱ぎながら食う。結構オトツ味がするもんじゃ。こりゃー『火焼きん仲間』。

餅つくりん序でに　盆の鼻つまみダンゴ。米ん粉じこねた材料を適当な　太さに区切り　３本指じつまむと　鼻をつまんだ形にしあがる。沸騰した湯に入れち　湯がくと浮き上がる。もう出来上がりじゃき早ェが　お徳んばんさんのおはこ。きなこまぶした『鼻つまみダンゴん出来上がり』

米ん粉じゃねぇてじん　小麦粉じする『オトシダンゴ』も　時にやすぐ間にあうき忙しい時にゃ　時の間にサデクリ集めち　はい出来たでになる。忙しい時ゃ貝杓子じ　練った小麦粉を煮立った　野菜やらダシ汁に　区切り取っち入ると　アタダん料理たぁ思えん　気のきいたウメー汁が　出来上がる。

具財はなんでんあるものじ　役立つき無理に食いつけた　飯がのうでん按配いいもんじゃ。戦時中じゃ代用食でん　主食ん代わりゅしよったき　もう慣れたしも多かろうが　栄養価も約束されち　寒い時どまドウイイカ。適当に粘った汁具合が　おふくろん味ぅ丸出ししちくるる。

こげな素朴な食べ物でん　物んなかったの頃ぅ思うと　結構味ぅ舌は覚えちょつち　郷愁を誘うんも食文化　日本人にゃ欠かせん　食べ物でんあるじゃろう。暖かな家庭の片隅に　ほんのりとした昔ん　郷土料理は人ん心まじ　温こうしちくるるばかりか　人ん優しさまじが染みこんじ　来るごたる。それが料理ゅ作る　そん人ん人間性も　伝わっちくるような　錯覚まじ描いち　素朴なだけに　思わず笑顔になるごたる。

オトシダンゴちゅうと　山芋もケツクシャ旨い　上品な汁物。すり卸したヤマイモを　オトシダンゴと　同じ理屈に貝杓子なんかじ　適当の太さや量じ　落とすとフンワリ　煮えたんは浮きあがるき　ここが食べどころ。じゃが熱さが本番じゃき　夢ゆめ舌を焼かんごつせにゃ　折角ん味が逃げちしまう。

山芋はこげな食べ方もあるが　何と言うてん一番は　トロロ汁じゃろう。すり鉢じすり卸したんぬ　レンギじすりながら　だし汁を足しタリシチ仕上ぐる。適当な緩やかさ味にチョツピリ砂糖　ゴマを混ズると効果がある。おしまいに隠し味としち　生醤油を垂らすと　風味のいいトロロ汁が。

山芋ん蔓に秋口に指先ぐれな　実がつくがカゴメち呼ぶ。籠ん目の太さかる来たが　籠にも大小あっち　どん籠かるかなぁ。こんカゴメが　コボレングレナラ　苺籠じゃろうか。さっと洗っち飯を炊くときに　チョツピリ塩を入れて　仲間入りすると　出来あがった時にウワツラに　行儀ゆう並ぅじょる。

飯碗につぐ時にゃ　具合ゆう入るごつしち　喧嘩せんように。あっさりした味が　秋を感じさせちくるる。焼いても旨いが　粉にマブシチ　つきあげにすりゃ　こいた又ひと味以上に　旨い食い物にもなっちくるる。ただ取っちしまわんじ　２粒３粒は株元に残しちょきゃ　又来年にゃ新しい芽が　そしちやんがち山芋にも　成長しち行くもんでんある。

トロロんさんばい酢あえも　結構使い前がゆうじ　好きなしどまぁ　ヤツガイに見回しち　ねぇとショボンと　しよるぬ見かくるとムゲネェ。秋前に蔓ん先ぅゆう　覚えち葉が落ちちかる　掘るにゃ難しいもんじゃが　そこが知恵ん見せどころ。枯れち落てた蔓を上手に繋いじ　堀り当つるなんか　まさに探偵物語。そこに記憶力ん差がでち　幸せ一人占めになる。

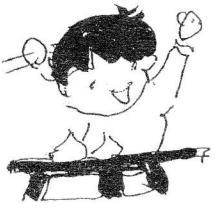
火焼きにもいろいろあっち　まぁ取りあえずは　小麦粉を軟らしくコネチ　適当な太さに切れば　それから先は使い方じ　どけな物にも変身する。平とうしち餅にすれば　火焼き餅。水を多目に入れち緩い状態で　平とう焼くと　ジリ火焼きになる。ジリ火焼きに黒砂糖をふっち　クルクル巻にすりゃ　熱さに砂糖が解けち　ひろがったもんじゃき　染みこんじ独特な　味と香りが口中に広がる。汗かき火焼きとしん言う。

丸く焼いた餅は中に　餡を入るりゃ火焼き餅に　入れんでん焼き焦げん味は　素朴じ保存食にもなる。残りの飯を粉に混ぜて焼くとオツナ味がする。漬け物が中に入ると　主食にもなるしタンサンを混ぜると　黄色な上品さが　フックラと仕上がる。ニラ、ニンニクが入れば　栄養豊富な強壮餅にも。

小麦粉を使い簡単に　そりー代用食にもなっち　栄養価も高く炊きだちでん　冷たくてん　暖め直しからでん　３種３様ん味が楽しめるんが　だんご汁じゃろう。普通だんごが　入っちょる訳でんネージャガ　なしかここらじや　『だんご汁』と　ことさらに言うんも　見れば貧しいような　一見見すぼらしい食品じゃが　出しはイリコを使い　具財はあり合わせの　いわば何でもすぐ使って　味噌味仕立てが　決め手にもなる。

消化もよくまさに健康食　しかも簡単で入れる麺も　自由型なスタイル。豊後でもこの地方独特な　だんごを伸ばして　その中程を中心に２つに　裂くから奇妙に見える。じゃがこれによっち食感が　抜群にゆうなるんです。麺だんごを伸ばしたビラが　濃淡と厚い薄いに　分離したような舌ざわり。こん『だんご汁』ん　他にない隠れた芸術が　生かされちょるんです。

まさに健康食としち　見直されちょるけんど　いかにせん伸ばした後ん　二つ裂きん難しさが　そうさせちょるんじゃろうか。



方言説明

5Ｐ…そりゃ…それは。イノチキ…生活。チッタ…少しは。そこじこす…それでこそ。チョウズイイキ…丁度旨いぐあいに。いいんが頬かぶり…両頬を保護してくれる手拭いでの利用。ソゲナ…そんな。これじ…これで。ヨクシュウ…欲張り。ケックシャ…結構。こんへんかな…ここらがいい時期。つかんごつ…判断に困るような。シチヤカマシュウナル…真剣煩くなる。イレクルシ…ごまかす人。ソゲナッタ…そのようになって。

6Ｐ…フツ…よもぎ。ぴらぴらつーじ…元気よく走って。ネジ取って…無造作にとって。へもどる…急いで引き返す。手じあたりゃ…手で触ると。こんげさいだせ…こちらに出してみなさい。じゃき…ですから。重箱…米が２きろほど入る食べ物を入れる蓋つき入れ物。じゃなぁ…ですね。おおきにだんだん…本当にありがとう。手のいる時にゃ…忙しい時には。セワシュナルノゥ…忙しくなりますね。張りこまにゃ…精出さねば。

7Ｐ…クッツイチ…そばについて。ケックシャ…結構。ヨッポズ…よほどの。トーキビ…とうもろこし。チット…少し。カンカラ…さるとりいばら。

8Ｐ…オキ…燃やした後の火の固まり。サデクリ…手荒く混ぜて。ウメー…おいしい。時どまドーイイカ…時には本当によい。

9Ｐ…レンギ…すりこぎ。カゴメ…むかご。コボレングレナラ…漏れないようなら。ウワツラ…上のぶん。ヤツガイ…夕食前の酒の楽しみ。ショボン…弱々しい容体。

１０Ｐ…ネージャガ…ないのだが。ビラ…小麦粉を固めに練って延ばした麺。

小麦粉の利用は昔から　米を大切にした生活環境が　自然と改善する知恵とアイデアによって　いろんな方法に広がった　食文化だろう。だけに農家経営も複合化された。

昭和２２年にゃ農地ん開放がされた。それまじ小作人じゃつた農家も　地主かる現金時価相場じ　それまでん小作土地が開放じ　自作農家になったもんじ　大分県だけでん２万ヘクタールが自作農かになった。江戸時代かるん名残り　小作制度ん年貢がゴロット　変わったこちなった。

そん頃ん米ん値段…１俵６０キロ…７００円じゃつた。ちっと溯っち見ろうかなぁ　天明元年《１７８１》…１７銭。
寛政元年《１７８９》…１５銭。
文化元年《１８０４》…１２銭。
文政元年《１８１８》…１６銭。
文政治１２年《１８２８》…江戸大火の年…３９銭。
天保３年《１８３２》…全国飢饉はじまる…３８銭。
７年《１８３６》…諸国飢饉……６０銭。
弘化２年《１８４５》…米騒動時代……５０銭。
慶応元年《１８６５》…１円４２銭。
明治元年《１８６８》…１円６９銭。
２１年《１８８８》…町村制施行……１円４２銭。
２７年《１８９４》…日清戦争……３円６６銭。
３７年《１９０４》…日露戦争……４円３６銭。
大正元年《１９１２》…桂内閣……８円３２銭。
８年《１９１９》…戦争米騒動…１０円６０銭。
昭和元年《１９２６》……１２円７０銭。
７年《１９３２》…満洲事変……８円２０銭。
１６年《１９４１》…大東亜戦争…１６円６０銭。
２０年《１９４５》…終戦…鈴木内閣……６０円。
３０年《１９５５》……３９０２円。
４０年《１９６５》……６３０８円。
５０年《１９７５》……１５６１２円。
５６年《１９８１》……１７６０３円。

さて現在の米の値段は　ほかの物価に比べて　いかに安いかが解りますが　いかがでしょう。

故郷には宝ん仲間に　入れちょかにゃち　思うもんが多いんじゃが　せめて記録だけでんち　書留めました。これかる先に　こげな勉強やら研究する　資料になりゃ幸せです。

鋳物師釜…こげな地名があっち　小字にも残っちょる。がそんそばに昔ゃ城もあったき　ヒョウイトすりゃ　鉄砲なんかん飛び道具ん　修理どまシヨッタンカン　知れんち思わるる。上詰にも刀剣を　作りよったち言う　記録もあるき　もしかここじゃ刀ん修理なんかが　されよったんか。コゲナ炉を使うにゃ　松炭が使われよったき　近所に松山もあるんも　ナルホドち頷けもする。

定盤石…イゼん水が不公平ねぇごつ　流すにゃ反別に合わせち水を配る　場所が決まっちょつた。そきーきちんと石じ作ったんが『定盤石』じ　チョツケマッケにや　崩れんごつ頑丈じゃつた。それでん水ほしさに　藁じせき止めち　ジブンカテ流す悪者ん　おったもんじゃった。気丈な女ごしゃ　そきー座りくうじ　そげんしが近寄ると　薄鎌ぅ振り上げち　怒ったもんじゃき　どけなアラムテー男しも　ちょいとチカヨレンじゃつた。イマキまじカラゲあぐると　もう正気ん沙汰じゃなかった。

手足荒神…肥後の行列が一の瀬を　渡っち野津原宿に　さしかかった時じゃつた。伊塚ん石畳かる　赤坂石畳なんかん　上り下んだりゅう　えーと来たち思うたら　馬ん歩き方がチットおかしい。『どうやら足ぅ痛めたごたる』　谷村ん大将軍に参りゃすぐユウナル。供んもんがツージ行くと　御札をあげよう　『祠を立てて奉って』と　言われて古道脇に造った。

今も　足の痛みに苦痛な　人たちん護身神として　お参りが多いんも霊験があるよう。ここが一の瀬渡しでんあり　そん頃は馬ん役職も多かったき。

盆栽好きなしが　いい花木があったき　空いた鉢に植えこむと折角ならと　石も並べ水溜めも造り　優雅な背景がでけた。そしち何日がした頃じゃつた　何んか爽やかな音に　『どこかる響くんじゃろうか』　そっと歩はこびん庭　なんとスズメが　あん鉢ん水溜まりじ　ミズアべしよる。

息を細めちじっと耳を　ソバタテ暫く見つめた。チュンチュン仲睦まじいツガイナンカ。ソレガまるで日課ごつ　毎朝続いたき『美しい水に取り替えち』　心がいやされる　幸せな時間が　くりかえされよった。『じゃ　えさもやらにゃ』　折角来てくるるそん気持ち大事に』　それが人情でんあろう。

人間が癒され和む　それに頓着のう　見過ごすんは　最低じゃるめーか。コンメー小鳥でん　感謝の恩返しゅ　しちくれよる。

そげなくり返しが　数日続きよったが　ヒヨィト気がつくと餌を食べたあと　こんだクワエち持っち行く。『まてよ　もしかしたら』　それが何にちかが　くり返されよったが　こん日は曇り空ん朝じゃつた。側の枝に小鳥が　３羽留まっちょる。親鳥が口にクワエち　サット飛び立つと小鳥が　ピーチクピーチク。

アラソウ　あの小鳥に口移し　どんより曇った空に　まるで描きだされた　親子のスズメん　食事風景がアップ　されたように　写って仄かな描写に　心がほぐされる思い。なんと素晴らしい　スズメ親子の情愛物語り。人間以上のほのぼのとした　朝の場面展開。によかったと嬉しい笑顔に。

ありがとう　勇気をもらったような　今朝の楽しい戯れの　魅れ場面も　施しの報いをくれたんか知れんが。そうじゃ小鳥の心んごつ　ウットウも　努力しゅうかな　生きちょる限りは。それがサカシイ秘訣でんあろうき。

野津原は恵まれた地域　じゃが川、橋、雨にゃ悩みも。

５０万年以上も前ん　阿蘇噴火ん溶岩が流れちーた　野津原ん川や谷そこにゃそれが　固まっち岩盤になったき　川底が岩になっちよる。じゃもんじそん川やら　谷を渡る橋にゃ　大けな据え石か桁を立つる穴が　掘られちそこに基礎がある。じゃき丈夫に出来ちょるんも　有難ぇことでんある。

野津原まじ来ると水もガイトなり　昔しゃ赤坂川ち言いよったが　参勤交代制度によっち　行列がこん街道を通り　途中ん橋も渡るごちなっちかるは　『七瀬川』ち言うごつなった。七つん瀬を渡るき水ん少くねぇ　そげな時にゃもう　お供ん武士は川ん中を　ジャブジャブと　気持ちもいいんか笑顔じゃつた　そうな。

それじこん川を渡るこつ　徒渡り《カチワタリ》ち　いうそうな。今でん東京に行くと　お徒町《オカチマチ》ち言う　町があるが昔ん行列んお供が泊まる　宿があったもんじゃき　そげー呼びよったんが　今も残っちょるそうな。一の瀬かる胡麻鶴まじゃ　肥後領地じゃが　それから先は臼杵領地、府内領地なんかを通っち光吉じ天領に上がっち　それかる先は川べりゅう　鶴崎に進んだそうな。

大水ん時どま遠回りせにゃ　川は危ねえし橋も不安じゃき　恵良かる先じゃ山べらを行く。大雨ん時ども崖くずれが　あったりするき馬が川に落ちたりも　したもんじ安全の碑を立てち　それかるは道幅も広めち　ちったはユウナッタガ　道中ん事故はゆうありよったそうな。

川ん補修やら橋を強いもんになんか　そん頃は苦労しよったがそれも　だんだん皆が力を出し　知恵ぅ絞ったもんじゃき　チツトズツハゆうなったが　悩みん種でんあったごたる。

米つき、亥の子餅。　しちりん、五徳。

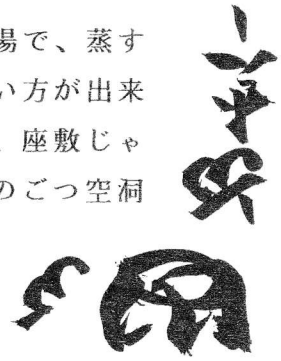
水車じ米をつく　粉を挽く　川が大雨じ橋も沈んだ　けんどそん大水もありゃこす　水車はクルクル凍る間もねぇ。粉挽くたんびチットンずつ　舞い上がった粉が　蜘蛛ん巣にチィチョルんが　機械の動くたんび　揺れちょる。上に構えち待つちょると　ヤンガチどこかる　飛んじきたんか　蠅がそれにうまい調子　かかった。慌てち下りち来た蜘蛛が　『こやっと』言うたか　知らんが　うまい具合にクルクル巻に。

『こいさん餌が捕れた』　じっと見ちょつた　ジイサンが『けつくしゃ旨い　いのちきぅシヨルワイ。そげな芝居んごつ面白いんも　出来るまじ待つ間ん　楽しいひととき。

ちっとしかねぇ米　精米に行くほずもねぇき　一升瓶にいるると　細い木の棒ん先ぅ　ヒラトウ削ると　手じコツコツつき始めた。戦時中にゃゆう　見かくる『米つき』ん　仕事が裸ん電気ん下じ　交替じつきよる。それでん自分が　チータ米にゃ愛情がこもるき　炊いた香りがなんとん　いいんが解る。

亥の子餅ぅもらいに　ツレノウチ権現に行くと　大けな石をカンネンカズラじ　縛っち八方かる　引き上げちゃ　ポトンと地に落としちゃ　亥の子餅ん唄を唄う。デーぶん昔かるここにあっち　秋ん子供たちん　楽しい行事がくり返されよる。五徳じ魚を焼きよるんが　煙りぅ立ち上げよる。

五徳ん徳は何々かなぁ　上に乗せち炊く、焼く、湯で、蒸す沸かす、じゃろう。三本足じゃけんど　五つもん使い方が出来る。しちりんな　上ん五つん利用、踏み込みコタツ、座敷じゃ囲い枠があっち　手あぶりにも使わるる。七つん輪のごつ空洞があるき　熱が逃げん工夫も　造るときにシチャル。



水に住む愛敬物　井路も働き者

のびゆく丘ん谷にゃ　春先にサンショウウオが　姿と見する。こん谷にゃ住みい環境やら　餌があるきじゃろう。施設んあった頃にゃ捕まえち　飼育もしよったが　なかなかデリケートじ　難しかったごたる。やっぱ自然の中じ　生まれ育ったもんなそこが　一番いいんじゃろう。

ヘタに大事に飼うたち　そげー人間の気ままな　育て方なんかは迷惑ち思うんじゃろう。蛙もカイワレチ　一人立ちする頃にゃ　水溜まりかるやら　池かる陽が暖うなると　這い上がっちくるんが　ゆう見かくるが　そん時ぁ決まっち　北向きにハイアガッチ来るごたる。

そりゃーどうでん太陽を　背にあぶると暖いから　じゃあるめーか。水がちったーヌルンデン　太陽ん光にゃかなわんきそれほうが気持ちも　よかろうち思う。田の中じカイワレタな　もう『ぬるま湯』ん　ごたるき　生まれよせん　飛び回っち元気印がゆう似合う。

それでん蛇が　どうも苦手じ追わるると　一目散に土に潜ると　命拾いもするが　ドンナンハ　すぐ後ろ足にパクリ。アリャマァ一巻の終わりになる。稲ん株間をグワユー　泳ぎ回っち害虫を食うき　ワクドち呼ぶけんど　どうしちお利口さんじ百姓しにゃいい　お客さんじゃつた。

稲づくりにゃ　もう水は絶対欠かせんが　そん水も苦労しち田んぼに　辿りついちくるる。そりゃー井路んおかげじ　百姓は井手ち呼ぶが　こりゃー『セットにゃ猫ん手も』ん　手にもたとえらるるごつ　大けな役割ぅ果たす。はるばると　山谷ぅ越えちきた水　まさに稲の神様でんある。

それでん雨がありゃこすじ　陽年なんかはチットん水を　分けおうち次々に回しち　上手に使うなんか　思い合う心があっちこす　旨い具合の使い分けになる。センショ張るしゃ　自分かただけありゃ　ほかんしゃユルッチクセち　多かろうと足りめーと知らんふりゅうする　人間もおっち時にゃ　赤恥かくことも。

土と石じ頑丈につくった井手　はるばる流れち入る　そん頃はまぁ冷てぇが　２．３枚田を通ぅち　次ん田に入る頃にゃ　生アタタケー水になっちょる。上手に潤しち下っち行くが　旨く利用する所は　そん下に井手を造っち　そんあまり水を　又集めち井手ん役目じ田に入れちいく。

定盤じぐあゆう　水ぅ振り分けち　不公平ねえごつ使う　心ん譲り愛が育っちも行く。手がいるセワシイ時に　シャント役目を果たす　百姓ん大事な手の一つ。じゃき井手ち言う。大きな井路が高ぇ所を　水豊かに引き連れち　通りながら分配しち　順に水が配られち　こん夏も稲がゆう育つごたる。

役目んすんだ水は　そんうちに谷に川に　落ちちくるが　そこにゃ珍しい『ヤナ』が　長け囲い上手に　つくられちょる。川をくだるアユなんかが　塞き止められち　竹じ編んだ落ち水道にぐあゆう流れち　行くごつなっちょる。まさに芸術品でんある。『しもうた』ち　気がちータがもう　手遅れ　銀りんが光るが。

整備管理する人たちん　英知アイデアには　さすがん川ん王者も　胄を抜いじ軍門にくだる。夏ん風物詩をバックに　ツワモノたちの　雄姿が眩しい太陽と　七瀬川ん整流に交差しち　一副ん絵を見るよな思い。それが又ゆう似合うき　不思議でんあるごたる。

§　肥後か府内か一の瀬渡りゃ　お国訛が懐かしい
　　ハ七瀬のせせらぎ　小鮎がキラキラ　ホイホイホイ　§

方言説明

１３Ｐ　ヒョイト…もしかして。シヨッタンカン…していたのかも。コゲナ…こんな。イゼ…井路。チョツケマッケ…急には。ジブンカテ…自分の家まで。どげな…どんな。イマキ…腰巻。えーと…やっと。ユウナル…よくなる。ツージ…飛んで。

１４Ｐ　ミズアベ…水浴。やらにゃ…やらなければ。ヒョイト…もしかして。アラソウ…そうでしたか。ウットゥ…私の。

１５Ｐ　ちーた…着いた。ガイト…沢山。ごつなった…ヨウニナッタ。それじこん…そこでこの。川べり…川のふちを。したもんじ…したもので。ユウナッタガ…よくなったけれど。チットズツハ…少しずつは。

１６Ｐ　けんど…けれど。チイチョルンガ…ついているのが。ヤンガチ…いずれ。こやっと…うまいしめしめと。こいさん…今晩の。いのちきショルワイ…生活しているよう。一升瓶昔の基準瓶。ヒラトゥ…平らに。チータ…着いた。ツレノーチ…連れだって。踏み込みこたつ…足を入れて暖を取る器具。手あぶり…両手をかざして暖を取る。

１７Ｐ　ごたる…ようです。やっぱ…やはり。そげー…そんなに。カイワレチ…生まれ育って。どうでん…どうしても。あぶると…暖にあててかざす。ヌルーデン…暖かくなくても。ドンナンハ…不器用なのは。アリャマァ…あれはまだまだ。ワクド…蛙。セット…農繁期。

１８Ｐ　チットン…少しも。センショ…欲張り。ユルーチクセ…ままにしておけば。定盤…平等に水を分配する基礎。シャント…しっかりと。セクシ…締め切って。じゃき…ですから。ヤナ…囲って誘導した魚の収穫設備。しもうた…失敗した。ちーた…着いた。ツワモノ…元気印の若者。肥後…熊本。府内…大分。ナマリ…土地の方言。

駒かけ　台ばらし

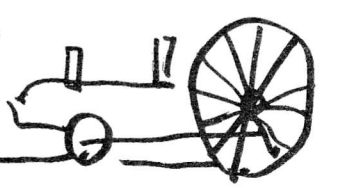
明治になっち熊本県道ち　呼ぶ道が出来た時ぃ　こん坂が出来たんが『柿の坂』　そん地名をそんままつけ　馴染んだ場所じゃが急勾配ん坂。道幅は広いけんど　なんさまん坂じゃき　雨降りどま土も洗い流す。当時は馬車も輸送ん花形じ　上り下りに賑わいよった。

馬車にオオケンコト　荷を積んじ下る時どま　元気な馬でん後かる　押さるるごたるき　ブレーキをかけち下る。それでん荷の重たさが　無理に押しまくるき　ブレーキもシャント　掛けんと走り出しそう。どうでん危ねぇち思うたら　横に危険防止につけた『駒かけに馬を寄せ』ち　後ろん荷にフレーキん　役もさせよった。

駒掛けだけじゃドニモナラ荷ん　そん時にゃもぅ下んカーブかる馬諸共　下ん川にドンブラと　事故が多かったごたる。じゃき山肌に観音菩薩をまつり　それかるは事故も　すくのぅなった。駒かけは高さが１メートル　幅も１メートルぐれじ　三和固めじ丈夫じゃつたか　それでんネンジュン　飛ばせじ痛みも　ひじいごたった。

長いぅ積んだ馬車は『台ばらし』ぅ　しちょつたき　思いきっち尻ん方をそりー寄すると　すりながら下るき　結構ブレーキん役じ助かったごたる。戦時中はガソリンも　不足じバスも馬力がねぇき　『お客さんこん坂は　アルイチクンナーエ』に　なっち皆んなつり歩いたもんじゃ。

じゃけんどソレガ普通じゃつたき　まぁ腹ぅたつるしも　オランジャツタが　文句言うしゃ『乗らんでんいいんで』ち　どま言わるりゃコリャマタ　困ったコンニャクじゃきなぇ。



五郎の

あなたは誰ですか物語

21-

家庭医のお陰は宝物

人間は健康な時に病気ん　予防シチョキャイイニ　それがナカナカせんもんじゃき　ヒョカット病気どますりゃ　もう慌てちかる騒がしい。『肌着着替えち　保険証は持ったんか』　病院どま朝早ぇともう　暇つぶしに来るんじゃ　ねえけんど年寄りが　多ぅ待っちょる。

『お前どう　サカシカッタカエ』　病院に来ちょるじゃき　どこか悪いに決まっちょる。『うん　ちっと熱があるき　風邪じゃろうごたる』　けろっとしち　そげー言うとやっぱ　気持ちがスグレン　ゴタル黙っちしもぅた。日頃ァゆうシャベクリでん病気になると　青菜に塩んごつ　シュントナッチョル。

静まりかえった頃に　バスが着いたんか　4，5人づれが　又入っち来た。『ありゃ　珍しいなぁ　悪いんな』　悪いから病院に来ているんじゃが　時の挨拶たぁまぁ　こげなふうに話ん糸口にもなりよる。『昨日かる　注射をしちモライヨル』『どしたんな』『たいした事じゃねぇけんど　寝れんじかる』　寝れんなら　おおごとじゃろうに。

定期的に診察しちモライヨルな　急に悪くなってん　原因がすぐ解るき助かるが　無利しち辛抱しよると　悪ぅなっちかるじゃ手もかかるし　銭もガイトいるき　ヨダキイ話になっちしまう。『お入り』ち　診察がはじまったき　順番に呼びこまれち　診察すると『ちっと無理しちょるな　いっとき休むんがいいで』

『じゃけんど忙しいもんじゃき』『じゃろうが　命が大事じゃろうがえ』　苦笑いしち　不満顔じ上着を着ながら　出てきた。『先生の言うこつ　ゆう聞かにゃ』　『それでん　お前忙しいとのう』　未練がましゅぅ言うんも　解るが命と仕事とどっちが大事かえ　『無理ぅしなんな』

次の朝は仕事が無理じゃき　早めに病院に来ちょる。『ありゃ今朝は早ぇなぁ』『やっぱ早めん用心が　いいち解ったわい』『じゃろうジ　どげえチッタいいごたる』『うん薬貰ぅち早ぅ寝たきいか　今朝は調子がいいごたる』『ソウカナ　無理ゃせん事じゃな』　二人は顔見合わせて　ほっと笑顔に。

『いまからもう　定期的に診察しちもらうコチ　しゅう』『それがいいわい　ちっとでん悪い時ぁ　早めに用心』『元気しちょりゃ　いい事もあるきな』『いい事ぁもう　なかろうけんど』『まぁ解らんど　宝くじが当たるかん』『いんにゃ　宝くじぁもう苦手じゃ』『買わんきじゃろう　そりゃ当たんはずじゃ』

かかりつけにシチョクト　何かあった時でん　すぐ解るし急な時にゃ　救急車もある事じ　すぐ対応してもくるる。病気ん時にすぐ間に合う　そげな方法が元気に　暮らせる一番いい方法ち思うき決めちょきぁ　安心でんある。二人の話は今朝はナカナカ　理屈ゆう進んじょつた。

『はい　お入り　今朝は早いなぁ』『お陰じだいぶ調子がいいき　これかるは　早めに診察しちもらう　そげな事に決めましたき　よろしゅお願いします』『それはいい事ですよ　私の為じゃねぇ　あんたの為ですから』　お医者さんも　嬉しかったようで『調子がよいごたるなぁ　もう薬は休んでみますか』

思わぬ自分の努力つまり　『自助努力が効果にもなっち　病気も軽くなるし　支払いも軽くすんで　笑顔で帰ってきたので　家の人たちもホット　みんなが嬉しくなったんと。家庭医がいると健康管理が　幅広く解るので　安心して健康で過ごせるようになったんと。薬より養生ち昔かる　言いますが日頃の用心が　こんな形になるのも　自分の健康を自分で　責任を持ち病気の時は早めに　受診すれば大事にならんじ　安心安心じ幸せ人生。

野津原ん清正公まつり

野津原にゃ昔かる『清正公まつり』が　夏にあっちとてん賑かな祭りじゃつた。今から４００年ほど昔　江戸時代ち言いよった頃は　野津原は肥後領じ　熊本の加藤清正の領地であったが　飛び地であったから　特別に大事にされていたそうな。加藤清正が亡くなって　細川殿様の時代になり　明治まで続くが清正の政治の仕方が　大変上手だったので当時の　領民は心を魅かれて細川領になり　明治になってから　大分県野津原になったが　今でん４００年前の殿様に　世話になったその恩をお返しする気持ちとしち　『清正公まつり』をしています。

野津原神社の夏祭りが　清正の命日になるので　その清正の霊を慰め感謝する願いから　はじまったようじゃ。祭りにゃ盆に帰らん人たちも　里帰りしち御輿を担いだり大山車《ダシ》を曳きながら　遥か昔の清正公を忍ぶ　優しい人の気持ちを表す祭りでんあるごたるなぁ。

実際に御輿を担いじ回るのは　明治になっちからじ　大山車の曳き立てもそれより更に後じゃが　長い昔の先祖たちが世話になり　故郷の発展に努力してくれた　清正公はじめ時の役人の　心の誠に感謝する気持ちの　現われが祭りには隠されち御輿を回し大山車を曳き立つる事じ　お礼をしているんじゃち思います。

世話をする事は　やがて回り回って報いとなっち帰る。そこに人間としての価値もあるんで。欲張った人が病気になったがお医者さんぬ呼びに行ってんくれん　心配しち見舞いにもきちくれん。加勢もしてくれない。これじゃいくら物があってん　物は代わりはしてくれんきなぇ。悲しい事じゃなぁ。

清正公まつりは『清正公市』とも言うち　三大市ち言いよった。『浜の市』『賀来の市』が　このへんじゃ賑やかな祭りじ　大山車《ダシ》を曳き出す時にゃ　郡役所に届だしをしち　お許しを貰いよった。『絶対迷惑かけません』ち約束文書だしたき　祭りには郡役所かる　わざわざお使いも参り　お祝ももらいよったそうな。

大山車《ダシ》の舞台じゃ　長洲《ナガス》子ども芝居も来て　動く度に祭り客がついて動く　そりゃもう一杯ん人で露天もあっち　孫に年寄りがあれこれ買う　そげな姿はもう祭りをいっそう　もり立てちょつたごたる。そこに御輿が来ると　それこすもう　賑やかさが一層大きくなっち　他所から来た人たちは　目を見張り若い娘たちは　御輿に追われると　キャキャ逃げ回る　追っかける　最高潮になったんと。

祭りが済むと次の日かるは　もう涼しゅなっちボチボチ秋の取り入れ準備に変わったもんじゃつた。近所ん地区の人たちも『他所ん祭り帰っちくるもんじゃき』　愚痴言いながらでん　やっぱ久しぶり会う元気な　姿に嬉しかったごたる。『もうイヌルン力』　別れは辛いが　別れは出会いのはじまりでんある。

『だったなぇ』『あんたかた　お客が多かったき忙しかったじゃろう』『そうで餅ぅ３回も　作っち帰りにゃ待たするやら　しかと大山車《ダシ》ん　芝居も見よせんじゃつた。『なえふんともう　くたびれち●しもぅた』『そろそろ溝刈りせにゃなぇ』　こんだ溝刈りすりゃ　焼き米つくりになる。

清正公様もこげな話しを聞きながら　やっぱ嬉しいじゃあるめーかなえ。４００年も前の殿様で。こげな広い道もそん時作ったんで　幅約８メートルでなぇ。

『おんのぅ』　玄関口かる声がシタチ思うたら　もう上がり口かる　笑顔ん髭面がゆう似合う　そん吉ちゃんが来た。『ありゃ今日は早ぇなぁ　ドコ行くきな』『こきー来たんじゃ　悪いな』『またトツポ言う』　大笑いするほず　コンシが来るともう　明りい恵比須様んご入場んごたる。

『山芋掘ったき　ヨダキカロウガ食いなぁ』『りゃーそりゃまぁ悪いなぁ』『悪いこたねーき　ココマジ来たんじゃこと』　まるで掛け合い漫才んごたる二人。男が男に惚れるたぁ　こんことじゃろう。いつ見てん笑顔が似合う　そりー人かる何事でん頼まれてん『いや』た言わんき　いちべ好かるる。

それがまた何でんシキル　器用貧乏ち言うがヒョイトスリャ　それが当てはまるごたる。農家じゃき農業かる林業　水道工事、電気工事　左官、鉄筋工事　大工ん真似事　踊り民謡芝居　なんでんゴザレと来るき　セク時ぁ『ちょいと加勢しちくれん』『いいで』自分かたん仕事ぁホタッチョツテン　飛ぅじ行く。

『こんだこげな行事があるが　どげぇな』『あぁいいで』　二つ返事じ引き受けちくるる。頼りん綱にもなるし　時の間に会うもんじゃき　ふんと助かる。そんかわり皆んなも　忙しそうな時にゃ手を出すき　『あっか　あげー雇うちまぁ　大事じゃろうなぁ』ち見たしが心配するけんど　世話ねぇ手弁当じ手戻し。

『こん頃ナジレチョルデ』　話を聞いた近所んシタチガ　加勢に押しかけた。『すまんなえ　明日シコシチョクキ　朝来ちくるる』皆んなは手をそろえち　次ん朝行くともうジャブジャブ　田の中をカキ回しよるもんじゃき　『ショワァネエンナ』『うん　おおきにちょいと休憩しただげで』

『こんだ国東巡拝があるが…』『行くこちしちょつて』　これじゃもう話もしかと聞かんじ。そんくれお互い気持ちもわかり会うんか知れん。舞台に出てん怖じ気もねぇ　かと言うち影ん仕事も弁えち　動きは早ぇし機転が効くき　役立つ機械んごたる。踊りどげえなち　水向けたら『誰からん話な』『会長かるじゃが　気の毒ち心配しよるき』『あんしにゃ世話になるきなぇ　いいとん』

覚えも早ぇし即興もドリブリも　お手のもんじピンち言うと　カンち答えるまさに貴重品。入院したき覗くと『もう嗅ぎ着けち　ふんと油断も隙もありゃせん』　『だまっち来るなんかオロイイナ』『しもうた　もう明日帰るきな』『まぁいっとき養生しなりー』こげん所いおると　死んじしまうがえ』

強気も過信もほどほどがいい。無理が重なると治るにも　時間がかかる。それも本人は痛いほず　知っていたじゃろうが。こんだ又『美しい方に行くかん知れんき』　強気が変貌するなぁ　やっぱ心ん動揺もあったんじゃろう。が専門医なら『治る』と　信じて送る朝ん笑顔にゃチット　寂しい面影も隠されちょつた。

国東巡拝途中じ抜けた寺も　何か所かデン後じその分だけを　又巡拝し最後の『満願』には　居合わせた住職が懇ろに祈願も。希望の３３寺は　宇佐神宮も含めて無事満願もした。帰路笑顔に唄うのは得意な『めんこい仔馬』　そして『諏訪りんどう』の舞台歌。心おきなく合唱した時　人の巡り合わせん不思議な人生も。

『吉ちゃんよい田植えはどげえか』　向山かるオラビヨル。『モウスンダ』　カンタンニ言う声に　折角加勢しちゃろうち　思うた気持ちが揺らいだが　相手に迷惑かけとねぇ　それが何とん歯がいいち怒った。けんどそれも本心じゃねぇ　ドウクリ言葉ん綾でんあろう。苦労承知に生きた吉ちゃん　本当は恵まれちをるんじゃろうが　立場本人の個性を思うとき
それも『幸せ人生』かん知れん。

方言説明

２１Ｐ…シチョキャ…しておけば。ヒョカツト…急に。どま…など。ねえけんど…ないけれど。サカシカッタ…元気でした。うん…はい。ちっと…少し。けろっとしち…まったく知らないような。ゴタル…ようで。シャベクリ…話しが賑やかで。シュント…急におとなしく。じゃが…ですが。こげなふうに…このような。モライヨル…受けて。どしたんな…どうしたのです。かる…ですから。ガイト…たくさん。ヨダキー…たいぎな。いいで…よいです。じゃけんど…ですが。じゃろう…でしょうるどっちが…どちらが。

２２Ｐ…じゃろうじ…ですから。どげー…どうです。シチョクト…しておけば。ナカナカ…ぐあいよく。なったんと…なったのですが。

２３Ｐ…とてん…とても。はじまったようじゃ…はじまりましたよ。ごたるなぁ…ようです。これじゃ…これでは。してくれんきなえ…してくれないので。

２４Ｐ…そりゃもう…それはても。そげな…そんな。ごたる…ようで。もんじゃき…ものですから。イヌルンカ…帰るのですか。だったのぅ…疲れてしまう。しかと…ゆっくりは。じゃつた…でした。なえふんと…でしょう本当に。溝刈り…周りを早めに刈り排水をよくする。焼き米…早く刈った稲から米を収穫して　煎るってついた米。こげな…こんな。あるめーかなえ…あるのではないでしょうか。

２５Ｐ…おんのうをいますか。シタチ…したようで。ドコ行くん…おでかけですか。こきー…ここに。トッポ…じょーく。

２５Ｐ…こんしが…この人が。ヨダキカローガ…大義でしょうが。ここまじ…この場所まで。いゃ…きらいじゃから。いちべ…いつそう。シキル…で来ますよ。ヒョイトスリャ…もしかすれば。セク時…急ぐ時。ホタッチョル…捨ててある。知らぬふりしている。どげぇな…どうですか。あっか…あすこは。手弁当…心配させないよう弁当持参。ナジレチョル…弱っている、元気がない。シタチガ…人たちが。シコシチャル…準備してある。

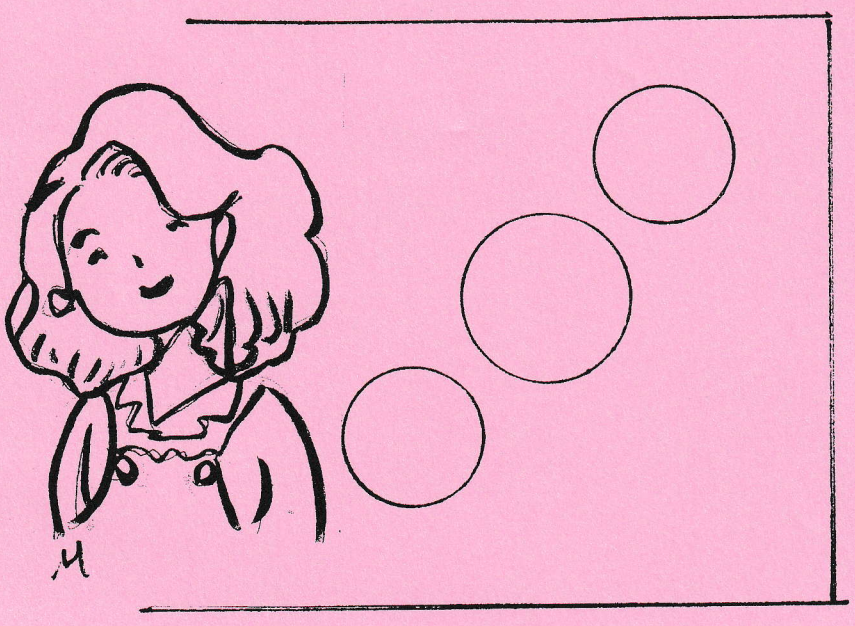
２６Ｐ…しちょつて…しておいて。じゃが…ですが。いいとん…いいから。オロイイ…根性が悪い。でん…でも。どげえな…どうですか。オラビヨル…大声で叫ぶ。ドウクリ話…冗談の入った話。

方言が見直されよる今　野津原ん方言も遠方じ　生活しよるしたちかる　『はりこみよえ』ち　言わるるとドンコンネェ嬉しい。じゃきこれかるも続けち　めぇとし発行しますき　読んじおくれな。読むしがオルンカ何よりん強み。家庭医になっちょる先生も　『気をつけなぁえ』ちニッコリ笑顔。『おおきにダンダン』　入れ歯が輝く。

祭りに戻った子が孫つれち　玩具ぉ買わされよる横顔。故郷に帰ると気持ちがホットするち言う。御輿が来てかオズネェデち　タヘラク言うが自信があると　ヤッパおずねぇき不思議。吉ちゃんの男らしさは　情愛があるもんじゃき　皆んなかる好かれちょつた。損は儲けん始まりたぁソン通りん言葉。施しこす報いんはじまり　風邪ひいち寝ちょつたら　枕許ち山ほずん見舞い。見舞いに来たしが土産に　貰ぅち帰るなんかドウクルゴタルガ　微笑ましい風景。吉ちゃんらしい。

五助さんが話す側じもう　茶を汲んじくるるしがある。見舞いに来たしがそれでん『シチャリテーンジャロウ』　情けは人の為ならずこんしにも又それが　どっからか帰っちくるき　なぇふんと。

女性の底力



女性の底力　《1》　　耐えてこそ幸せの報い

見ず知らずん地域じ相手に　魅かれち甘い夢もち　輿入れかるん甘い上気に酔いしれたんじゃが　そこには舅の甥、姑の妹も同居。会社の女性主任もおるき　理解協力は確実ち　思う浅はかさ気分じ主人とん　楽しい時間がと　ルンルン気分じゃつた。が世間なそげハ甘えもんじゃなかった。

朝かる気を使う新婚生活は　無情にも注視の的にさらされ　神経のすりへりが妙に　気がかりにもなっちきた。じゃがここじ負けちゃ　意地もあるち思うと　若いんじゃきち　自分に言い聞かせ叱咤激励する。愛しい旦那は仕事に没頭　そげな女性特有んセメギアイにゃ　頓着がねぇようじ一人　苦労を背負い込む有様。

そげな激動ん時に　不運に帰ってきた妹に　『季節が到来すりゃいい相手にも遭遇』と　慰めたつもりが逆効果　『追い出し』ん切ない誤解ん汚名も着せられち　泣きの涙はホロホロと。誤解は解けるに時間も必要じゃが　高飛車な対応ん言葉は　いっぺん口かる出たら　元には戻せなん鉄則が　なんと無常な結果にも。

じゃが世の中には捨てる神あり　助ける神ありん世のたとえ。心だけは豊かにとすれば　鬼神も避けて通るも又　訪れるもんじゃつた。『辛抱しなぇえ　ウットドウもこなされたんで』　近所ん年寄りん優しい慰めは　里の母の姿にダブラセち　涙が枕を濡らす夜が更けち行く。これが人生じゃつたんかち　知恵もちーた。

あれかるもう早いもんじ　八十路を越しち振り返る今。ふっと昔ん友達に出会った時　『あら　あんた心が豊かじゃなぁ』　単刀直入に言われち　『そうじゃろうか』ち　自分の過去に思い馳せちみた。辛かったあん日あん時は　苦労しただけに何か　ガムシャラに過ぎたごたる。やっぱ絶えたんが　よかったんか。

時代は急速に回って故郷も　大きく変貌しちょるが　そげな中じ変わらん人間の真心は　激動んごつ変わった今でん　変らんきほっとするごたる　追憶もヘモドッチ来る。当時んこつう覚えちょつた　人に６５年振りにヒヨコット　巡り逢ぅたもんじゃき雑踏ん中ん立ち話じゃつたが　笑いこけながら話す時　懐かしい苦労した事が走馬灯んごつ甦っち来た。

『ちっとも変わらんじゃねぇ　苦労したけんどユウ頑張った』ち　褒められたんが　嬉しく『耐えちこす　元気で今も迎えられた』ち　何か目頭があつぅなったごたる。過ぎりゃほんの短いが　苦労する最中は一分が　一時間のごつ　長い頃もあったごたるけんど　あん時に努力しち　頑張り耐えたそん　報いが今戻っち来たんじゃなち　思いよるよう。

チツタ老人仲間の姿じゃが　心が豊かじありゃこす　そん言葉身のこなし　人に対する情愛な　心くばりは物や金じゃ　代えられん宝物をきっと手中に　獲得したんじゃあるめぇか。それこそ幸せ人生でんあろう。子どもがそれそれの道を　そして孫が笑顔じ『バアチャン僕は　私は』と　来た度に話す　言葉のはじはじに親を通じ　感謝する心ん発達が　見られるごたる。

『元気しちょりゃこす　良いこともありゃ　楽しい日々もあるもんじゃき　病気せんこつじゃなぁ。健康こす幸せん原点でんあろう』　眺望んいい場所にある　家かる眺めちょりゃもう　昔ん苦労は忘れち明日ん　幸せを願うんが得じゃろう。『１２０まじぁ元気しち　慌つる事ぁねえんで』ち　笑顔じ言うそんしも考えち見りゃ　苦労したにそげんこたー　オクビにも見せんのん得な人生を歩きよるんじゃろう。『しあわせな』ち　言われた言葉が印象に残ったんも　自分も今は幸せなんじゃろう　ち思い当たる街角じゃつた。

母の苦労を助けたい

まだ小学校４年生じゃが　百姓ん家に生まれた体は　もう仕事しょると様になっちょる。トッタンな兵隊じ出征しちょるき　家にゃ年寄りと　オカチャンが働くこちなる。周りん家でんそげな様子が　見らるるんも仕方ねぇ時代。牛が田んぼに出ちょる　ナカメー小屋ん肥をだすこちなった。

『しこ出来たナ』『うん出来たで』　笑顔じ母親に心配かけめーごつ　牛小屋に入った。まだ１０歳になったんか　ほんとなら遊びてー盛りん子ども。ちっとでん加勢すりゃ　やっぱヨコワルルき　よかろうち子どもながら　そん気じ早起けもした。田んぼに牛を追うち行く　ジイサンガ　『怪我せんごつしなぁえ』ちやっぱ気になり苦になる。

今頃ぁオトッタンな　どこじ戦争しよるんか　勝っち追いかけよるんか　ヒョイト負けち逃げよるか　子どもん頭にゃ　いろいろ浮かんじ子供心を　攻め立つるごたる。『オカチャンナ　コッチかる出すき　お前ぁ前ん方をだしゃいいで』　ちっとでん軽い方にと　親心が子を思う揺れ。

『みんな田んぼに　行ったごたるなぁ』　田の方かる牛んナク声がすると　『うちん牛がヒジインジャ　ナカロウカ』　子供心にも敏感に声が気にかかる。『しょわねぇわな　ちょいとヨコウかなぁ』『いいんで』　遠慮するんか　母親が言うのに　一遍な断わったが　一緒にヨコウこちした。

『早ぅ戦争が終わるといいなぁ』　言うのを控えち　母親ん顔をみると　同じこつー考えちょるんか　見返しち　『どしたんな顔になにかチーチョるかえ』　『イインギャ』　フタリガ顔見あわせち　大笑いする。ほっとため息まじりん　息ぅつくと内緒に入った。

はりこむもんじゃき　思うたよりゃ早ぅすんだ。『おおきにヒドカッタジャロウ』『インゲ　こんくれなら』　真実は疲れも隠せんごつあろうが　役にたったち思うと　子ども心にでんヤッパ嬉しいもん。『早ぅすんじよかったなぁ』『おおきに』
子守しながらん　ババサンも　腰ぅまげながら　『ぼちぼち昼になるんじゃねぇ』

そうこうしよったら　ジイサンモ戻っち来た。『ありゃーヒドカッタナァ』　『インニャ　イインド　そりーしてん美しゅでーたのう』　ニコニコしながら　小屋ん中を眺め　加勢した孫娘ん頭に手をやると　『何の褒美やろうかのぅ　今は何もネーキ拳骨でんやろうかのぅ』

揃うた昼飯時んツボ先にゃ　子守しながら作った　オサイが並うじょるが　働いた今日は特別さに　『うまいわな』の連発に　みんな大笑い。『おとったんに見せてーのぅ』『……』母親は目頭を熱くしちょる　無理もねぇ　年端もゆかん娘が父親の代わりん　小屋ん肥だしん姿。

晩方早く終わったもんじゃき　ばばさんが沸かした風呂に『今日はゆう働いたき　一番風呂に入りなぁ』『いんげいいで後じ　それより　ジイサンガ先に入らんと　やつぱ悪いわな』仕事も出来た　年寄りにも気を使う　いじらしい娘に　じんと涙が頬を伝わっち。

田んぼかる帰った牛も　うつくしゅなった小屋じ　ダルモンぬ食いよるんを見ると　気持ちよさそうな姿に　『あーよかった　また加勢せにゃ』　嬉しいのが全身につたわるよう。牛の体をそっと撫でながら　『ひどかったろぅ　ガイト食べなぁぇ』と　囁きよったごたる。

介護する身の幸せ

やんがち５月になる介護生活　入院しちるき　朝ん仕事に区切りつくると病院に出向く。はじめんウチャー『フントモウ』ち・日ごろんドンナ男ち　愚痴まじりん思いがあったが　治りん時間が待たるるごつなると　イツンナカメーカ　しみじみ介護さるる身の　苦痛が解っちくる。

いい按配に事故ん直後　近所にいたシドウン　機転じ救急車ん手配　そん車も狭道ぅいち早く　駆けつけち来ちくれた。病院も当直医が専門とあっち　事故処置が早かったもあっち　大きな事にはならんじゃつたき　経過は医師と　自助努力こす出来んが側に　付き添う妻ん献身的さが　光つちょるごたる。

病院も羨やむほずん日参の介護　これは定評になり取り巻きも呼応するごつ　チームワークんよさもあっち　５月目に入ると回復ん波は鼓動するごつ　早まったごたる。１３０日あまり一日も休まん　介護日参に神仏も加護の手か。近所ん心ん友達も真剣に支援脇役　叔母たちも夜ごと話し相手の　訪問が続きよった。

疲れがたまりかけても　周りの心ん支えは応援歌にもなっち疲労がタマリカカルと　気分転換の優しい心くばり。どけだけ励まされたかと　感泣しち枕を濡らし　『覚悟はしちょるが』　ち自分に言い聞かせた思いが　好転シタンモ医師の的確な　手当てや看護職の慣れた看護が　ここまで回復に導いたごたる。

『おまえがムゲネエノゥ』　ふと漏らした伴侶ん一言が　苦労してんそりゃ当たり前ん妻ん務め。冗談が言えるごつなった　心ん喜びん影にゃ巡り会わせた医師　看護職員　近隣の友の愛情身内ん心くばりが相乗効果に。そげー思うと『介護する幸せ』が　今の元気な証ち思い浮かべち見る。

方言説明

２９Ｐ　じゃが…ですが。ここじ…ここで。いっぺん口かる…一度言うたなら。ウットドウ…私たちも。こなされた…苛められた。そうじゃろうか…そうでしょうか。

３０Ｐ　そげな…そんな。ヘモドッチ…引き返して。ヒヨコット…急に。ユウ…よく。チッタ…少しは。あるめーか…あるのでは。しちょりゃこす…しておけばこそ。ねえんで…ないのです。そげんこたぁ…そんな事は。

３１Ｐ　なっちょる…なっています。オカチャン…母親。そげな…そんな。しこ…準備。ヨコワルル…休まれます。ごつしなぁえ…ようにしなさいよ。どこじ…どこで。コッチ…こちら。うちん…私の家の。ナカロウカ…ないでしょうか。チーチョル…ついている。イインギャ…いいえなこと。

３２Ｐ　はりこむ…精出す。ヒドカッタンジャ…疲れたのでは。インゲ…いいえ。ありゃー…あれは。そりしてん…それにしても。でんやろうかのぅ…でもしましょうか。オサイ…副食、おかず。ダルモン…牛の飼料。ガイト…たくさん。

３３Ｐ　やんがち…やがて。しちるき…しているから。フントモゥ…本当にもう。ドンナ…下手な。イツンナカメーカ…いつのまにやら。ごたる…ようです。タマリカカリ…疲れが溜って。シタンモ…したのも。ムゲネーノゥ…可愛いそうでならない。そげー…そんなに。シドゥン…ひとたちが。

早期受診　早期治療ちよく言うが　へんぴな場所じゃ　思い通りに行かない事も多いもん。救急方法何かを　覚えておくと思わぬ　役にたつものじゃが　誤るとかえって　困る現象にもなりかねない。あらかじめ　指定医や病院があれば　そこに向けての搬送が　効果にも結びつくよう。日頃からの連携　健康管理　自助努力　それらが健康の護身にも　役立つと思えます。健康な心身こそ　幸せの証と思います。

南蘭小物語 2

35→

五助の宇曾山物語《№２》

五助さんに連れノウチ　登りゃあんまりヒヅワ　なかろうち思いよったところ　ドシチドシチ足達者にゃ　タマガッチシモウた。それもそんはず　年中馬と歩くもんじゃき　無理もねぇちシャツポ脱いだ。一の鳥居かるボチボチ　上り坂がヒズなる。が若い娘にしちみりゃ　それがなんか嬉しい年頃。

春秋ん彼岸の中日にゃ　そりゃもう参りが多いき　すれ違う時にゃ　肩ぉ離すかん知れんち　用心しち登り始めた。彼岸は信仰にも結びつくき　夢とロマンもあるもん。残された資料なんかを見てん　巡り会う世相ん中じ　心も休まるごたる。そげな一時があるのん　幸せな人生かん知れん。

神神が九州に降ったんが　多種多様に伝わっちょるが　宮崎は天孫降臨じゃが英彦山が　古いち説く人もある。いずれにあったちしてん　九州ん地は暖こうじ肥沃。緑ん山そりー水に恵まれ人ん心も穏やかじゃろうき　頷けるごたる。高い山ん頂きに居を構え　諸々ん幸せを念じち　生きる道を開いたとすりゃ　九州ん連山や由布鶴見と共に　そん内ほところに並ぶ　御座岳、精進岳、宇曾岳は　最もふさわしい理想郷。生食に満ち足りたとすりゃ　今日ん起こりん元は　そん頃にあったんじゃろう。

九州中南部にイタラン輩がおった。そりゅう征伐するたみーに大和かる　大和武尊が派遣され　無事平定されち帰路に　雲海ん中にフオート眺めた　野津原ん里が夕日脚光に　浮かびあがったそうな。御座岳じチョイトん宿　憩い求めち心和ませた　そん折に社を造り剣を納めち　『こん里の民よ安かれ』と　引き上げたとか……のちそん剣は宇曾山に　そしち今は宇曾社に　納められている。気持ちを大事にしち　多くの人たちん心の　より所にもなっちょるよう。

『黒山の里に咲く花一輪』

谷を流れる水ん音に耳を　かたむけたら今日も　素晴らしい一日がはじまりそうじゃ。ふり仰いだ山ん頂きん　松ん青さが今しがた登った　陽の光にクッキリと　映えちか時折揺るる風ん　音と共に山谷を越えち　物静かなここまじ　聞こえちくる。姉弟が飛びだしち行く　そん先は決まっちょる　山の陽だまりん松ん麓。

こかぁ風ぅ避け雨は忍んじ　寒さからも暑さかにん　身も守っちくるる格好ん場所。じやき子どもは　もうユウ知っちょる。親ん昼間ん食い物捜しんナカマ　子どもん世界はまた別な空間にチャント出来上がっちょるもん。水を飲み木の実を取っち食う　山にあるもんすべてが　自分がんもんでん　ある。

そこにゃ遊びもっち　自然の中から覚えた　造りでーた物が役立ち　いつんなかめーか　それが生活も支えち　くるるごたるき不思議でんある。鳥も獣も万物すべてが　友達でんある。黒山に人が住み着き　火を使うすべも振り返ると　九州ん南と北ん接点じゃつたここぁ　そこにアッタンカン知れん。

幼い子どもたちを中にしち　多くん幸せが築かれた　それもそれを旨く纏めた　力を持った人たちが　それを助けた人たちがあってのこと。我々の先人は常に　そん気持ちを持ち続けち　故郷ん土地に根を張り　幸せづくりに力を合わせたんじゃろう。そしち東にふり仰ぐ　宇曾山は心んより所　神の里としち大切に　するようになったに　違いはないじゃろう。

山で野で川で取れたものは　まず供え感謝しち　分かちオウチヨバルル。生きち行く為にゃ　どんくれーゼージナ事か。そりゅ教え習い覚えたんも　人ん心が通じおぅたかるこす。

日暮れが近ぅナッチキタ。陽が西に傾くと野じ　摘み取った一輪の花をダイジコウジ持っち　家路に急ぐ草道ん傍らに　すだく虫ん声は優しゅうじ　何か話かけちくるるごたる。一日が終わっち西日に　ぬかずいち感謝した人たちん　後ろ姿に聳ゆる宇曾山は心んよりどころ。

西に沈んだ太陽と　入れ替わりに昇った月ん光に　浮き彫りするごつ松ん梢から　ひときわ鮮やかな山ん姿。あん山の木々にそしち　そん岩に皆んなが　心ん安らぎぅ求めち　今宵も又手を合わせち祈り　明日ん幸せまじ念じる　人間の偽れない心の　表情でんありそう。

狩猟じ得たもん　集めたもんなんかが　夕餉の膳を飾り月に美しく　描きだされる里ん。静まりんなかん　一輪の花ん香りがなんと穏やかじ　福よかな自然環境なのか。あどけなく咲いた花　それを摘んだ少女の優しい　情愛ん輝く瞳が夜の　空間を照らしちょるよう。

“　宇曾に行こうか　荒木に出ようか
　四辻峠の　思案顔　ハ　七瀬の　せせらぎ
　　サラサラサラサラ　ホイホイホイ“

“　わしの思いは　宇曾山　山の
　他に木《気》はない　待ち《松》ばかり
　　ハ　七瀬のせせらぎ
　　小鮎がスイスイ　ホイホイホイ“

『朝靄に山並みは映えて』

地球は１３５億年前に始まり　４６億年前頃に生物が　現れたち言います。それに比べゃ人間なんか　ほんのこん前ん事。

そげな中じ宗教は人間の　心の中に安らぎを　与えるもんじゃった事は歪めねぇ。そん昔に日本を三分しち　生活ん基本にしちょつたとか。耶馬大国も現在ん耶馬渓、英彦山、中津、を中心にあったのじゃア　なかろうか。女性中心の繁栄が現在も　地域性を生かしち　生き続けちょるよう。

そしち天台は東国の出羽中心に　真言は西国大峰熊野吉野を中心に　日本神道系は九州の　英山を中心に広がった　のじゃなかろうか。朝靄に映えた山並みにも　土地を愛し土地に生きる　人たちの営みが　今日もくり返されちょる。草の実を食する事も　水に暮らす生物を食する事も　人が生きていれば繰り替えされよる。

幸ワセな人間の生きる道には　裏を返せば危険な明け暮れじゃが助けおうち行く時　それがお互いん　幸せにも結びつくもんでんある。仲睦まじゅう暮らす　親子んそん顔にゃ　貧しゅうでん幸せが浮かんじ　周りんしたちまじ　幸せにしちくるるもんじゃ。

山ん尾根伝いに武将を　立てた列がこっち来る。松ん根方ん地蔵さんの側じ　子どもたちゃ無邪気に遊びよる。が近づいた武将にタマガッチ　慌てち逃げでーちしもぅた。今まじ見た事んねぇ格好じゃき　無理もねえこつじゃが　オズカッタな間違いねぇ　子ども心ん現実ん世界。

人里離れたここじじっと　影かる覗き見よるんな　やっぱそん仲じゃ餓鬼大将。じゃが餓鬼チュウテン　悪いこつするんじゃねぇ　言えば親分リーダーじゃき　ダマシ矢面に出たんじゃった。餓鬼大将たぁそげなふうに　勇気があったき皆んなが大将にしちょるんでんある。『大丈夫だよ　心配しなくても』ヤッパ　ソゲーユウタゴタル。

そげー言わるりゃ　合点も行くごたる態度に　シャガミクウジしもぅた。怖さと不安が交差する　目じジット見上げた。山並みぅ照らした陽は　イツンナカメーカ　頭ん上まじ上がっち　白いちぎり雲が２つ３つ。チットズツ動きよるんが　まるじ絵を見ちよるごたる。

つづら折れん参道ぅ五助にチーチ　歩く娘も元気がいいき『よこおーか』ち　声もかけられん。そりゅう知ったんか　『ひとヨコイせんでんいい』『ジャノゥ　イップクスルカ』　二人は顔見合わせち笑顔がこぼれた。早ぅ参いったんじゃろう　汗が出たぬ上着を脱ぐと　腰に巻きつけち　若者らしい格好も　参りん帰りゃあんまり　変でんねぇごたる。

宇曾　群山紅染めて　霧が匂うよ　朝山帰り
可愛い　あの娘《こ》は　誰の花
ソレ　野津原よーいとこ　ソレ　野津原よーいと　ヨーイヤナ

七瀬七谷　七つの月が　早生を刈る娘《こ》の　眉引く姿
誰にあげようか　この一穂
ソレ　野津原よーいとこ　ソレ　野津原よーいと　ヨーイヤナ

いい按配に清水を集めち　寄せた水溜りがあっち　側に誂えたごつ　カンカラが木に　巻きちーちそん葉が　まこち美しい。『ほら　これじスクウチ飲めゃ　うめーき』『おおきに』無邪気に受け取ると　遠慮のう先にスクウと　五助さんにサイデータ。ソゲナ心くばりがち　感心したが　断わっちゃ折角ん親切ぅ　仇にするこちなるき　『ほーか　ホンナ先にヨバリュカノゥ』　微笑ましい状況が　育ち盛りん娘んお接待じゃろう。『うまかったわい』　葉っぱを戻すと　嬉しそうに受け取っち　こんだ自分も　すくいあげた。水鏡に汗ん滲んだ　娘の顔には魅きつくる　初々しさが笑顔に　写っちょつた。

ヒゲ面にコボルル白い歯　子どもん前に立ち止まった　そん人は座ると頭を撫でち　腰かる取り出した木の実を　渡すと自分も食べち見せた。『さぁ食ぶるがいい』　優しい眼差しに安堵したごと　子どもも口に入れ　えーと笑ぅた。それが嬉しかったんか　武将もニッコリ笑った。

里人が駆けつけち　こんありさまを見ると　言葉を出すのも忘れちおったが　えーとチット落ち着くと『どちらえ』と　問いかけた。『東に帰る途中だが　素晴らしい場所だから　しばし休みたい』　受け答えに安心したように　里人も小屋に案内しち丁重にあつかったもんじゃ。

４５０年　景行天皇ん頃　熊襲征伐ん帰りに　立ち寄ったこん御座岳ん里。周りん木々の合間に　流れる谷の美しい水。高い頂きかる眺めた　見渡した地形はなんと　桃源郷んごたる。戦の疲れを癒すにゃ格好ん場所。里人の人情も温かじ　しばしの安らぎが　味わえる別天地んごたる。

九州は一つの国じあったろう　大陸から離れた説も。野津原ん地形も一大陥没ん後　現在ん地形が残り　愛宕山が南面の岩じ高さを保ったよう。大和武尊は東北蝦夷征伐に向かい　武内宿弥と共にそん名を響かせたごたる。武内宿弥はさらに　神功皇后に従っち新羅征伐にも　出かけたそん折に使用した　『二面の冑』は　大冑と言ったが　武門鎮護のために　英彦山にある真形の写しが　のち入蔵橋本本家にあるから　御座岳滞在の縁も頷ける。

煙りんタナビク静かな山里に　ついさっきまじ平定ん　戦をしよったなんか　考えとうもねぇごつ　人間が安らかさを味わう御座ん里したちと東の間ん　交流はこげな武将たちん　心ん中にも平和ん尊さが早ぅ　皆んなが味わえる世の中に　なっちほしいち願うちょるんじゃ　あるめーか。

方言説明

３５Ｐ　ヒズワ…ひどくわ。ドシチドシチ…どうしてどうして。タマガッタ…びっくりした。シャツポ…帽子。ヒズ…辛い。離すかん…はずすかも。じゃが…ですが。あったちしてん…あったとしても。そりー…それに。じゃろうき…でしょうから。イタラン…悪餓鬼。フオート…一瞬に息をつき。チョイト…少しの。なっちょるよう…なっているよう。

３６Ｐ　ここまじ…ここまでは。こかぁ…ここは。じゃき…ですから。ユウ…よく。チャント…しっかり正確に。かんもんでん…のものでも。くるるごたるき…くださるようですから。アッタンカン…あったのでしょう。じゃろう…でしょう。分けオウチヨバルル…別けて頂き食べる。どんくれ…どのくらい。ゼージナ…大切な。

３７Ｐ　ダイジコウジ…とても大切にする。ごく…ように。なんかが…何かが。ちょるよう…ですようで。

３８Ｐ　なかろうか…ないでしょうか。くるるもんじゃ…くださるものですから。オズカッタ…怖かった。チューテン…と思っても。ダマシ…急に。ヤッパ…やはり。ソゲーユウタゴタル…そのように言うたと思います。

３９Ｐ　シャガミクージ…しゃがみこんで。ジット…おとなしく。イツンナカメーカ…いつの間にやら。チットズツ…少しずつ。チーチ…着いて。ジャノウ…それなら。カンカラ…蒸し餅の下に敷くサンキライ。そげな…そんな。ホンナ…それなら。

４０Ｐ　コボルル…こぼれる。さっきまじん…さっきまでの。なっちほしい…なってほしいけれど。ちょるんじゃ…しているのですが。あるめーか…ないでしょうか。

※　多少のニアンスの違う　方言もあると思いますので　お含みください。

ほんの束の間ん交流じゃつたが　都ん武将ん気持ちゃ　こん里ん人たちん心ん中にゃ　何年もん間の付き合いみたいな　通いあうもんがあったごたる。始めちオズカッタ餓鬼大将も　今まじこげなヨソかるん人たちゃ　合うたこたーねぇち　いつまでん何か忘られん思い出が　しっかりしゃんとた残ったごたる。。

ちんめー娘ん子どま　『踊ってんいい』ち　言うもんじゃきもうソウゴウ崩しち　みんなずり集まった。手囃子に合わせち踊る　いたいけな子どもたち。そりゃーもう真心が通う　何年もんイケウチみたいな　気持ちが育ったんじゃろう。たった一日でん人ん気持ちは　相手が仲間なら　優しい人ならどれだけ　安心しち話したり　食べたり踊ったりも　出来るもんでんある。

踊りに釣りこまれて　ひげ面ん武将もたった。不器用じゃが踊りに入る　そん気持ちは相手を　大事にする尊い真心でんある。側じニコニコ笑顔ん大将も　頷き体を左右に揺らせての様相は　本当にうちとけた　癒しの空間に入りこんだ　人間の赤裸々な姿でんあろう。

『一緒に踊って』と　子どもが手をとりあげた。はにかむ心はそん　童心の期待に添わないと　これだけ歓待してくれる真心の接待に失礼になると　思ったのか上着を脱ぐと　相手の子どもを抱き上げち　髭面をそっと押し当てた。痛い思いだろうが嬉しいのか　だまって甘えながら　首にしっかり抱きちいた。皆んなも拍手喝采。拍手拍手と。

楽しい時はいつまでも　心許せる間に過ぎ去って　なごり惜しい時が近くなっちょる。夢なら止まれと言いたい　これが巡り合わせた人間の定め。避けて通れん宿命でんある。小せぇ娘ん脳裏にゃ胸にゃ　どんくれ幸せな時間か　そげな人生ん夢も
やんがち消えて幻ん　世界に戻るこち。

五助さんがチョイトたばこ　クユラセヨルなかめ　連れん娘がヒョカット何か思いでーたごたる。戦後んえーと皆んなん　心もオチチータ２２年《１９４７》　春んチュウニチ参った　こつー思いでーちょる。そりゃもう人間のじょう　登るしどまぁ油断すりゃ　下るシドウカル　せられち付き飛ばされそう。

ちっと陽が照りでーたら　日傘ぅさしち登っちくる。下りゃ影ぅ追うち下がるき　そりー風がすーと脇かるでん　入っちくるきいいけんど　汗がにじゅうじ　チット開いちょきてへが　見らるりゃ恥ずかしゅもある。オジイゴタル話じゃが　道も解らんごたるん人、人じゃつた。

大分バスも夜中かるもう　臨時バスが運転されよったき　人ん波ぁ夜中ん『御戸開き』に　カキアオウドチ　夕飯食うとボチボチ　しこうするとヨダッタ。臨時バスが着きゃ●おおかたんしがそんまま　登っちくるき波が出来る。そん間ぇバス以外んしも。じゃき引っきりなしになる。

夜中ん『御戸開き』参りは　遠方んしが多いが　近所んしどま夜の引き開けに　参り始むるもんじゃき　一区切りしたちツルット　したち思うたら早おけ組が　詰めかくる。社務所に詰めたしたちが　腹ごなしにつまむ　それにゃトーガラシん効いた　煮染めがシコーシチョツタ。

肌寒い奥の院じゃき　風に吹かれたりすると　汗まみれじ登るしたちにゃ　チョイト想像がでけん。ちっとずつ夜がシラミカカルト　また参りが多ぅなっち　御守りやら御札やらが　次々に手渡しされち『ご利益』ぅ頂いち　えーと下り道になる。こげな有様が昼頃まじ続く　そりゃもう賑やかち言うか　目にこびりつくごたる様。まさに信仰心の極みじゃろう。それだけ無言の絆がそこにあったんじゃろう。

正月参りにゃ佐賀関かるも　『佐賀関講』ちゅうんがあっち夜に　吊り上げたブリぅ　お供えにしよったそうな。漁に出ち帰りん塩路かる　宇曾山の明かりが゛仄かに見ゆるんを目標に無事帰れたち　そんお礼参りに毎年参る　そげな高貴な風習は長く続きよった。

そん代わりに野津原からは　関ん権現様にお参りしち　稲ん虫よけに神水を汲んで　田んぼに撒いたそうな。心が通じるとそれにも　神が宿りご利益としち　人の心にお返ししち　くれたんじゃろう。いまもお互いにお参りする　そこには純真な里の人たちの　生活安寧に感謝する　思いかもしれん。

ひとしきりお参りが　途絶えた頃になると　こんだ若い人たちもお参りする　そげな気持ちに育った　証があちこちに眺めらるる。小遣いをもらったんか　握りしめち何を買うか　なか　なか決まらずに下っち　しもうた。なんさま２銭３銭じゃ話ぃなるめーが　当時としちゃこうだいな銭。

あめがた、ニッケ、アンコロ、ビンニッケ、チット高ぅなりゃ　ラムネどまか。まぁそげーヤシボスル　そげな事よりゃ思い切りお参りする　そげな機会が子どもん　心をより豊かにしたんかん知れん。友達同志ん楽しい　遠足かピクニックか。夢に描いた親から離れた　冒険じゃつたんか。

『銭なんぼもろたんか』　露天のジイサンが　店じまいしゅち　残った飴をドシュウカチ　思案しよった。『２銭』『そうか　ほんなこれ全部やるわい　２銭じ』『……』　子どもたちは戸惑ったごたる。でんそげー言われた時　嬉しさがこみあげち　『損するで』　こげな言葉が聞かれた　じいさんナミダが　滲みでーち抱きしめたかったち　聞くとそん気持ちゆう解るごたる。

§§　宇曾群山　くれない染めて
　　霧が匂うよ　朝山帰り
　　可愛いあの娘は　誰の花
　　ソレ野津原ヨイトコ　ソレ野津原ようとこヨイヤナ。

　　七瀬七谷　七つの月が
　　早生を刈る娘の　眉びき姿
　　誰にあげよか　この一穂
　　ソレ野津原ヨイトコ　ソレ野津原よいとこヨイヤナ。§§

若いしたちん朝ん　草きりかるん帰り道　ひょいと眺むるともう仲睦まじいしも　これかるんしも　オルゴタル。草きりん加勢をしよったり　そりゅう知らんふりしち　見ちょつたりも。そげな素朴な農村の恋物語も　淡く消えたり　切ない結果もあったろうが　それも人間の宿命でんあろう。

『今日は都合いいんな』『いいで』　問いかけに恥じらいん返事が帰るんはいいほう。親同志が決めた相手も　仕方のぅ嫁ぐしもありよった。じゃがそれが社会ん　巡り合わせでんありゃち忍び苦労しち嫁ぐ先ぁ　予想もせんごつ大事にされ　幸せん孫抱いち初里帰りもある。

許婚ち言う関係もあった　子どもん時かるん顔なじみ　そげな宿命を背に過ごした青春。じゃがそれらがあっちこす　幸せにも辿りつくもんでんある。盆踊りん晩に調子ゆう　話が決まる例もありゃ盆踊りん　踊り手に惚れち結ばるる事も。縁はまさに異なもの味なもんでんある。

そげな移り変わりを　そっと見ちくれちよる宇曾山。何も言葉にゃねえけんど　心が通い合う時そこにゃ教えちくれ　支えちくれる　ご利益もあるごたる。出征する兵士が武運長久を　念じち無事帰ったしも　運だけじゃねぇごたる。

御座岳、精進ヶ岳、宇曾岳、ん連山を眺むると　まるで２人の男性が１人ん女性を　中に仲睦まじゅう　あるいは火花ぅ散らしちょる　そげな姿も想像する。神聖化された山のなかにゃ　神の宿りを人は信じち　心ん支えとしちきた。そん中に宇曾山な豊後国史にゃ　『有蔵山』ち記されちょる。

霊山西山足相接　その峰特之秀抜　奇梢与霊山相伯仲。上有祠曰有蔵権現、有蔵神祠、在有蔵山上、権現。不知共創乃所守之神。霊山と並べて見ても　優雅で素晴らしい山で　あったと見られると　女山であったのかん知れない。御座岳がしっかと　抱きしめた暖かい手をすり脱げち　精進ヶ岳ん胸に飛びくうだり　反対ん事が起こったちしてん　持ちつ凭れてちん　お互いじあったちすりゃよしじゃろう。霊山は正式は『キュウゴザン』ち言う。

§§　春秋にぎわう　宇曾山　サノ　宇曾山
　　霊験あらたな　虫ふうじ　トサイサイ　虫ふうじ。§§

古くかる婦人会なんか　熱心に歌い踊った　讃える唄。作詞も会員がつくり　曲はそん頃　はやった『紅屋の娘』を　使いよったが　ケツこうユウ　あいよったごたる。昭和初期ん頃かる戦後まじ続いちょつた。

そん後にゃ馬子唄も出来ち　民謡研究家ん　加藤正人が曲づけしちょる　ふるさとん民謡。

§§　宇曾に行こうか　荒木に出ようか
　　四辻峠の　思案顔　ハ　七瀬のせせらぎ　サラサラサラサラ
　　ホイホイホイ。　§§

美しい宇曾山にゃこげな　仄かな夢やらロマンが　飾っちくれちょるきか　なんか親しみも湧いちくる。

△△　さとの修験場　△△

修験場の宇曾ん山が　みどりましち陽の出が　早ぅなっち朝ん光りが　朝露に濡れた木木ぅ　照らしちくるる。一の瀬川んせせらぎん音ぅ　聞きながらん　食事ん後かたずけする　若い人たちにも長く寒かった厳しい　冬かる開放されち凌ぎいい。遠ゅう離れた父母ん許ぅもう２年　梅ん実を眺めち母を思うと　頑張っち一人前にナラニャチ心に決むる　朝んひととき。

§§　流れん清い　七瀬川　ト　サイサイ　七瀬川
　　かじかの声や　蛍がり　ト　サイサイ　蛍がり　§§

鐘が鳴り拍子木に　合わせち般若心経を　唱えち今日ん日課がはじまると　七瀬川水ん音やら　木木んさや揺れが　交差しち朝焼けん空間ぬ　波紋んように流れよる。修験場ん静まりん中に　素朴な姿ん仏がぽっかり　現れて苦しい若い人たちん　心に悟りを授けちくるる。そこに仏門に入った　人たちん心ん　喜びも浮き彫りされ　生まれいずる　自信も持てるごつも　なるようにある。

朝のお務めが終わった　しばしん一時　里ん娘に逢うことも　話す事も出来んけんど　寂しい寺内ん　こん人たちにせめてもん　慰めん言葉をかけちアゲテェ　と娘心が畑仕事に　行く語らいん中に伺えち　木の間がくれに見ゆる　仕事着ん女らしさん　言葉んやりとりが　まるで見ゆるごたる。心んやすらぎち　そげー思うと悪いんかん知れんが。

心くばりしたそん　気持ちだけでん　どんくれー嬉しいもんか。そげな優しさに　生きる幸せも感じ　里ん人たちん為にも　尽くさねばちふっと　心に呼びかける　そげな風がサツト吹いた。宿命の中にある人間が　生きて行くそん中じ　人の世話に心がなりよる宇宙ん仕組みとは言え　厳しい現実が　それを教えちもくるる。

★★★　円福寺について　★★★

円福寺たぁまこち　響きんいい寺ん名前。下谷にひっそりした内懐には　東と西にゃ風よけん　山が連なり南に　宇曾山を仰ぎ見る位置にある。北は透けて冬ん風は　冷たいけんどそんかわり　夏は暑さが和らぎ　涼しい風がすり抜けちくるる。『両方いいんが頼かぶり』たぁ　まこちユウ言うたもんじゃ。

谷川んせせらぎを　行く水は美しく　つめてーな勿体ねぇぐれじ　周りに咲くいろんな　花にも幾百年も　続けち育って来た暖かい心が宿っちょるよう。東に居を構えちょる　庄屋さんかたん　屋敷ん高さと　同じにするようにと　西ん円福寺も　山を受けた広い寺域ん中に　建物が整然と並び　心んより所にふさわしい　場所でんあった。

寺に仕える人たちん　手入れんゆき届いた　境内にゃ松、杉んほか古木、珍木、もあり仏の前を飾るにゃ　こと欠かぬようなそげな花ん中に　ひときわ香ぐわしい　梅や桃の木にそっと　抱かるるごつ白いシャガ　黄色んヤマブキ、むらさきんテマリコ、なんかが　旅をしち来た人たちん　心ぅ慰めちもくるる。

周りん山肌や谷ん周りに　散在する家並みも　含めち５０戸あまりを　中心とした心んよりどころは　里ん日々ん楽しさ含めてん　よそん人たちにゃ　比べるこた出来んごたる　素晴らしいもんが　見て取れる。これこそ自然の中での　人間の生きる場所でん　ありそうに思われる、

円福寺や庄屋さん館を　中心に道行く人たちん　明るい顔がそりゅう　物語っちょるよう。年頃ん娘たちん野良着に　そっと手を貸す男らしい　姿体に流す汗ん光りは　いつん間にか優しい情愛に変わり　幸せな実りにと進んで　めでたい祝い船が　帆をあげて。

応永２１年《１４１４》源家の中心　新田義貞の臣江州佐々木の末葉　金丸三郎憲貞が　直入郡の柏原氏神八幡宮より《現在は田代八幡社と言う由。後醍醐天皇と北朝方と戦った　新田義貞が越前藤島で武運つたなく戦死。のち大友を頼り豊後にくだり　柏原郷田代村に京都の　岩清水八幡社を勧請して　義貞の霊を祀り当社を建立した。柏原村９ヶ村総鎮守であり　旧藩時代は上社に維新後は村社だった。社殿は天保１２年《１８４１[redacted]》建立。現地の調査によれば》

上記より勧請して　当村に森永左近照義が　一宇を建てち『宇曾山円福寺』とした。当時は天台宗ん力が　強くて行政機構じゃこげな　形じ作られよった。六郷満山も同じケースんよう。円福寺にゃ天台宗本尊をはじめ　大天狗豊前坊、宇曾大権現張山坊、洛北松尾山鞍馬寺奥の院多門天狗大豊坊も　合わせ祀られたち記録されちょる。

祭官にゃ大和加茂神社の　社家板山某がなる。郷士広瀬一撤斎、庄屋太郎右衛門が　信仰の祭神としち　地域にそん教えを広める。はじめ過原にあった　円福寺も下谷に移し　宇曾山の神宮寺としちょつたが　広瀬、橋本、などん勧請じ奥の院に移し　日本兵法第１社『宇曾大権現鞍馬大天狗宇曾山張山坊円福寺』となる。これじ密教は円福寺に　尊神な奥の院に　鎮座するこちなった。

張山坊とは源家以来ん　『源家守護の御神霊』ち　言われる。このようにして　宇曾連山は　英彦山、尺間山、を結ぶ直線上にあり　山伏ん修験場となる。松ん梢に風鳴りがすると　白衣を閃かした天狗が飛ぶ　鬼は慌てち隠れ　よからぬ病魔は　叶わぬとひれ伏した。じゃが一時逃れじゃき　見抜いた神は　忽ちにそん魂胆を微塵に砕く。子どもん病気も　こりゃもう叶わぬと　退散したと言う。『子どもん虫封じに霊験あらたか』　そこにある。正月、春秋ん彼岸中日、お参りん多いのん　ゆうわかる。

修験者はほら貝を吹きながら　錫杖をつき一本歯の下駄に身を委ね　山里に下っては、行の力と神の霊験によって　村人の病気を治した。特に子どもの　『癇の虫』は　たちどころに治すとその霊験の高貴さがあった。今も続く『虫封じ霊験』は　特質なご利益があって　救いを請う人が多い。心の問題もあるが。

円福寺はのち　禅寺となる。白衣をヒラヒラさせて　小走りに動く修験者が　みどりの木木の合間を　揺らして行き交う時　里の道行く人たちは　神仏を拝むように　手を合わせて　我も無病息災を念じたことだろう。あの山　あの岩陰　から突然現れるそん姿はまさに神であり　仏じあるのかん。神神しさもあった。

当時の宇曾山奥の院の祭神な　日向鵜戸大明神絵図、祖神鹿取先生霊位、観世音菩薩、鞍馬山多門天張山坊、とされちょつた。山を崇める人の心の　より所でんあり　多くの人たちの修験の場として　大切にされちよる　山だけにこのような　祭神をお祀りしたんじゃろう。

女人禁制ん山じゃあるが　里ん女性もそん代わり　男たちに託しち家族ん息災　里ん安全を念じた事じゃろう。鵜戸大明神のまつられた　起因は不明じゃが　宮崎鵜戸神宮とは　全く関係なかったが　同じ修験場としての　想像すりゃまた共通するいろんな面があるんも事実じ　嬉しい思いも起きる。

東の間のより所として　修めたのかも知れない。鵜戸神宮も吾平山仁王護国寺といい　日本３大権現の一つじ　あった別当寺とん　関わりあいは　一連の山岳宗教ん場で　あったようである。

こげな連なる山と山が　関わって長い間に　人が幸せに過ごせたんも　元には神仏があり　宗教が心に示す生き方の　御手本でもあったのでは　なかろうか。天狗さんにも感謝せにゃなぇ。

子ども世界

励まされた言葉の思いで

祐子は田舎の百姓の家生まれ　学校までも遠いから　分校に通っていた。そげなある日の事　早く終わった土曜日じゃつた。道に咲いていた花を取っていると　坂道を郵便屋さんが　上がって来て後ろから　ダマシ声をかけられたから　タマガッテしもうた。『お帰り　今日ははやいなぁ』『……』　『あらご免な　タマガッタ』『いんにゃ』と　笑顔がかえって来た。

そうか『栗灰ん本村ん子じゃなぁ』　そう思うと『今から村に行くき　一緒に帰ろうか』『うん』　素直に頷くと　チョコチョコ歩いて帰り始めた。小鳥が藪から急に飛び立ったき　アワテチこけるような　真似をすると　それが　おかしかったんか　急に大声で笑っている。本当に純粋な娘じゃつた。

祐子ちゃんとこの『バアチャン　元気がいいんな』『うんジャケンド足が悪いき　よそにゃイッキランニ』『ソウナ　そりゃまぁ可愛いそうじゃなぁ』『そうで』　無邪気に話す　そんはしばしにゃ　バアチャン思いん　気持ちがゆう解る。田舎におると　なおさら人も来ないし　近所んしも畑に出るき　話すこともねぇもんじ　寂しいじゃろう。

話しているうちに坂を上り　ちっと下ったら家が見えでーた。『あっごウットカタで』『そうじゃつたなぁ　後じバアチャンに会いにゆこうかな』『そげー言うちょくわ』　辻じ別れると祐ちんも　ツージ家に急いだ。きっとバアチャンに　話してカッタンじゃろう。

一時したら歩いち来よる　『ばあちゃん　来たで』『そうな』足を引きずりながら　ばあちゃんも　エンサキに出て来た。そよ風が木々を揺らしち　そんたんび小鳥が　チィチィと鳴きよるんが　手に取るごと聞き取れる。

『足の痛みはどうですか』『まぁコゲンフウデ　何とかワヤワヤしょるけんどもぅ』『無理せんごつ　お気をつけよえ　帰り道じ祐子ちゃんと　一緒になっち　優しいいい子じゃなぁ』『とてん　いい子じ』　少し涙声になっちょる。田舎ん百姓は苦労が多い　でもそれも宿命じゃき　努力しち頑張れば　神様もちゃんと　見守ってくれるもの。

あれから６０年余り過ぎた　突然の電話に『あの時の娘です今は　もうオバアサンデスガ　と変わらぬ心くばりの　電話の向こうの声にあの日が　ふっと甦りました。間もなくオバアチヤンも亡くなったが　『いい所に嫁に行きよえ』と　いつも言っていたとか。優しい気持ちに　神様がご褒美をくれたのです。今は幸せ人生に暮らしているとか。

偶然新聞で名前が読み取れ　無性にあの日が思いだされてほかに何かないかと　調べていたらなんと　別の世話をしている　場所の領収書に名前があった。なんと偶然な巡り合わせ『間違ったらごめんなさい』と　お断わりしてかけた　電話の向こうにあの時の　声が再現されたごつ聞き取れる。

『お母さんと数年前にお会いしたのです』と　言われて母親の名前まで鮮明に　言われるその人となりが　世の中には現実にある　人の優しい巡り会いが　親の祖母の引合せとなって生きる喜びに　嬉しくなったんと。人生とはそんなものなのです。大切にすればやがて　自分も大切にされる　これこそ人生の双六　『つつろく人生とも』言います。

過疎になって今は地域も　住まいの人たちが少ないが　住めば都の世のたとえ　そこに暮らす喜びもきっと　先人の皆さんが残した故郷が　今も生かされているのでしょう。祐子ちゃんもふと尋ねたら　きっとあの日あの頃が　嬉しく甦ることでしょう。かけがえのない宝物も。

大事な川が汚れたら

学校帰りの愛ちゃんが　川の流れをじっとみちょる。いままじ気がつかんじゃつたが　『何かこん頃は川の水が　ヨゴレチョルゴタル』　不思議な顔じ　いつまでん見よるき　友だちん国ちゃんも　立ち止まっち川を　覗いち見た。『なぁちょつと　川の水キタネェジャロ』『ふんとなぁ　今までより汚れちょる』

『なしじゃろうか』『老人会長さんな　いろいろ知っちょるき聞いちみろうか』『それがいいなぁ』　二人は帰り道にある　そん会長さんかたに　立ち寄って聞いてみた。『お前たちは　いい事に気がついたなぁ』　会長さんはは　『川の水が汚れている　それには　いろいろ理由はあるが　汚す人もいる事も。

山の手入れがしなくなった。山の土が流れこんでいる。そんな理由が重なると　せっかく毎日流れる　川でも汚れてしまうき　困ったもんじゃわい。と話してくれました。

原因はいろいろあるが　皆なんなの関心が足りない事が　大きく　昔は田んぼにゃ水が必要じゃき　いつも水に気を配っていたが　今は農家も米を造る人が　安いことや植えられん事や　家ん収入を米以外に頼るき　田んぼや水に対する　考えが変わったからんごたるなぁ。

じゃきついつい田んぼの　水が粗末にされよる。田んぼに水を入れんと　乾いたり入ってすぐ流れでち　田んぼが崩れたりもする。水が必要ねえと　井路も壊れてしまう。そげな時に大雨が降ると山には水が　たまらずすぐ流れ出る。じゃき大水になっち山が荒れるし　田んぼは壊れるし　大水が土まで流して　被害がおおごとになる。それどころか　大水は川まで痛めて　被害は川の岸にも山からの　ゴミや材木が流れて来る。

次々におおごとになっち　都会に流れつく頃にゃ　大変じゃろうなぁ。二人は会長さんの話を聞いて　川のしくみもチット解ったようじゃつた。『そうか　田んぼだけじゃのうじ　山も荒らさんごつ手入れを　田んぼもいつも水を　貯められるごつ。川には同じような　量ん水が流れるごつ　みんなが気をつけにゃ　川の水も汚れて流れる　ことになりそうじゃ。

田んぼに水がたまる　山にも水がたまっち　チビットズツが流れでると　どけな大雨でも　あんまりな被害がのーじ　自然に水は減り天気が続いてん　心配のう水も流れるこちなる。山の手入れじ緑ん美しい山　水はちゃんと蓄えちくれ　大雨でんすぐにゃ流れでらんき　水害もねえ安心に　生活も出来る。

米が植えられないんなら　ほかの利用方法を考えち　田んぼを上手に使う方法を。また山や田んぼに水を貯める　そげな方法を考えた農業に　変わると一番いいんじゃろうなぁ。

山の保水力はおおきいので　そげな知恵を働かした　これからの農家が早く　出来たらいいなぁと思った。それによっち川の水も　美しくきれいになり　大雨がふっても　いっぺんに流れ出るのでなく　少しずつ流れていれば　水不足の心配もないし　生活も安定しているじゃろうなぁ。

会長さんの話を聞いて　いろいろ勉強になったが　そげな話しを聞いた会長さんも　子どもの考え方も　なかなかいいもんとかんしんしちょつた。みんなが話合い　考えあいながら折角の美しい水を　いつまでん美しく　しておきたいもんです。今も水不足で苦労する　人たちもある中で　多すぎて悩むのは贅沢な日日です。

これからは水を大切に　無駄のない利用方法と　川を汚さない心くばりで　故郷の水を大切にしましょう。

子どもん遊びも移り変わる

明治かる大正時代それに　昭和始め頃まじゃ　男ん遊びにゃユウ兵隊さんが　出たもんじゃが敗戦じ　遊びん世界もがらっと　変わり昔しゃ遊びん中かる　工面しち遊び道具も作る。習うのもありゃ見ち盗み取る　工夫が広まっちょつたもんじゃ。小刀は男ん子の学校道具じ　肥後の守、切り出しナイフ、なんかが幅を利かせよった。

手っ取り早ぇ遊びじゃ　道具はいらんきソコラに　ある物じ使うともう遊びに変わっち行く。石ころ一つでん遊び道具に　話が弾むき２つ３つ話そうかのぅ。

石けり…適当な感覚に丸を書いち　スタートラインかる蹴ると　丸に入るそん丸に前もっち　点数を書いちょきゃ採点の数に入れらるる。点数も不規則じゃき　旨い所に飛んでん弾みじ隣に入ると差のつく点になるき　きわどい面白さが出る。時にゃ先に入った相手ん石ぅ　はね飛ばしち自分が　そこに座ったり相手を点の多い所に動かしたりもする。

陣屋取り…自分の陣地かる早くでち　相手に手が先に触れたら　勝ちじ陣地に人質にする。ところが隙を見ち取り返しに来て先にタッチすりゃ　連れ戻せるが反対に　見つかっちタッチさるりゃ　又生け捕りになっち　そん二人が手を繋いで助けを待つ。そん時うまくタッチ出来りゃ　２人取り戻すが反対に　タッチさるりゃ又生け捕り。だんだん繋いだ手が長くなると　隙間かる来た相手が　上手にタッチすると　全員が生き返るこちーなる。

知恵比べち言うか作戦の立て方なんか　遊びん中じ能力ん競いあいじ　攻めたり攻められたりん　面白さが満喫出来る。どけな寒い時でん運動場を飛びまわるき　ぽかぽかん暖もりも満喫。子どもぉ風ん子たぁユウ言うたもんじゃ。遊びん中かるアイデア生かした子どもん世界は夢がロマンが開く。

女の子が遊びに使うんが　いろいろあっち　ゴム紐利用やら毬を使いこなす　女らしさが集団の中かる育つ。

ダンダン飛び…輪ゴムを繋いじ距離をあけ　下かる順にあげながら　そりゅ飛び越えち行く。交替じ飛びながら高くなっち行くが　ゆうしたもんじケツクシャ　高ぅ飛び越えきるき身軽いんもおる。飛びよっち引っかったら　だめじ最後まじのこったんがいい。高等な飛び方にゃ両手をつくと　瞬間に逆転飛び越えする　そげな遊びもありよった。

毬つき…ゴム毬ん弾むぬうまく　利用しち遊ぶんも女ん子の世界じゃきそん操りは　巧み上手に毬がヘネクラルル。ヒトツついては背中に受け止め　一つついては股を潜らせちそん瞬間に自分もクルリ　体を交わしちつく。女ん子の柔軟な体を生かした　遊びは技術の差にもあるが　集団じしよると相乗ん効果も　でちくるごたる。

毬つき歌に合わせち　唄いながら毬つきは　見た目にも優雅に眺めらるる。一番はじめは一の宮、二また日光東照宮、三また左倉の宗五郎、四やまた四国の金比羅宮、五つは出雲の大社……と替え歌なども交えた　子どもん歌は毬つきにゃ　離せない伴奏曲でんある。

肥後領地ん野津原にゃ　『あんたかたどこさ』も　唄われちそん内容もユニークナ　歌詞が組まれち飽かせない。あんたかたどこさ、肥後さ、肥後どこさ、熊本さ、熊本どこさ、船場さ、船場山には狸がおってさ、それを猟師が鉄砲で打ってさ、食ってさ、旨さのさっさ。

子どもん童歌にゃ　哀愁もあるけんど　優しい情愛もこめられちょるき　聞いちょつてん　愛らしい気持ちにさせらるる。

子どもの知恵試しな遊びに　道具を自分で作っち　遊ぶんがある。学校かる帰ると　トギも飛んじ来るもんじゃき　子どもん仕事ん藁切り、湯わかし、子守りんかは　そん日の状況によっち　いろいろ変わっちもくる。がそかぁチャント　わきまえちするき　そん点な偉いちも思う。

わなかけ…竹んシナリを利用した　小鳥を捕る方法じ　そん鳥を食うことよりも　捕る好奇心が頭ん回転ぬゆうするんかん。周りを囲ぅち小鳥が　中ん餌にオビキ寄せらる仕組み。中に入ろうどち　引っ張った罠ん竹に　触るとシオリ竹が跳ね上がっち　小鳥ん首を絞めるもんじゃき　合格になる。じゃがいつもたぁ限らんじ　頭んいい小鳥は　脇かる餌だけ失敬しち　バイバイとなると　竹は跳ねあげちょいち　小鳥は逃げた　フントマァ情けねぇこち。

とりもち…そん点こん方法は確実は　大きいがちっとタイミングに　もんだいがあっち難しい。『モチノ木』ん皮をへーじコツコツ叩くと　ねばねばしたダンゴが出来る。竹棒んさきにヒッツケち　セミ、トンボ、チョウ、なんかを狙ぅち差し出すと　運がよけりゃもう一発じ　捕れたもんじゃ。そん代わり　取はず時　グアユウせんと　ベダベタが周りにヒッツキサガスき　おおごちい　なることがありよった。

ジョウラングモ捕り…美しい姿ぅしたジョウラン　コリュウ捕るにゃエバを枠にした　道具に集めち巣に近づけち掬うと　見事乗り移ってくるる。そんまま家ん周りに持ち帰っち　止まらせちょきゃ　やんがちそきー巣の網を張る。もう『わしがんジョウランジャキ』に　なるき楽しいもんじゃが　時々餌を網に投げちょかにゅ　餌がねえと逃げちしまう事もユウアッタ。

子どもん遊びイタズラにゃ　憎めん場面がゆう見られち　笑いとうもなる。

宝探し…女ん子んあそびにゃ　おとなしいもんじ　優雅さも兼ね備えちょつた。王様が宝物を決めち　目隠ししたナカメ隠しちょく。目を開けたほかん者たちが　決まった場所を捜し回るが　隠し場所によっちゃ　中々見つからんじ　ひかっとした所にあっち　骨折る事も多かったが　それが又なんとん面白い遊び。

隠し場所ん脇にたっち　どうしてん解らんが　隠したシガどかん所ぅ見ると　『そこじゃあるめーか』　察したシガそくぅ除くると側に　隠しちょつた例もあった。個性もあっち隠し方が　出ちくるんも面白い。たあいねぇ遊びん中じ　お互いん個性キャツチも　好誼にゃ大きな役割ぅ果たす。

隠れ鬼…これも宝捜しにニカヨッチョルが　個性がでるごたる。目隠しん中めー鬼が隠るる。『もういいで』と鬼ん発言じ　捜しはじむるが隠れた　そん場所も大体同じごたる　所ぅ選ぶもんじ　捜し出すにゃ苦もねぇが　込み入った所好みにゃ苦労するき　ウスメジミチョルト　なんと梯子伝いに上っちょる。皆んなじ話おうち　そん下に陣取っち　『おらんなえ　ちょういとヨコオウエ』

コレジャ二階ん鬼も困っち　ガサゴソしだす。知恵比べん頭つかうんも　子どもらしい遊びでんある。『ふんともう　ミンナヅリ下に来たき　困ったわな』　大笑いしたんも　先が読まれたんかん知れん。たあいねぇ子どもん　遊びじあってん　幼い頃ん思いで　捜しに来てくれんき　そんまま眠った例もあったり　ワヤクに梯子外した事も　今となっちゃ大笑い。

そげな思い出が多いほず　成人したら懐かしゅう残る。そげな思いでん少ねぇしにゃ　理解しにかろうが　人間社会にや笑いや　悔しさがあっちこす　人生でんあるんじゃろう。

方言説明

５１Ｐ…そげな…そんな。ダマシ…急に。タマガッチ…吃驚して。いんにゃ…いいえ。ジャケンド…ですけれど。イッキランニ…ゆけないので。ソウナ…そうですか。ウットカタ…私の家では。ヅージ…飛んで。話チョツタンジャ…話していたのです。

５２Ｐ…コゲンフウデ…こんなことですよ。ワヤワヤ…ゆったりと動くが。つつろく人生…行き来する交流で。

５３Ｐ…ヨゴレチョルゴタル…汚れているようで。キタネージャロウ…汚れているのでは。なしじゃろうか…なででしょうか。もんじゃわい…ものですから。ごたるなぁ…そのようです。じゃき…ですから。

５４Ｐ…おおごち…大事に。チット…少しは。のうじ…なくて。チビットヅツ…少しづつに。でらんき…でないから。そげな…そんな。いいんじゅろうなぁ…いいのでは　ないでしょうか。

５５Ｐ…ユウ…よく。もんじゃ…ものです。いらんきソコラニ…いらないからそこらに。こちなる…ことになりそう。どげな…どんな。

５６Ｐ…ケックシャ…けっこう。ヘネクラルル…当たりさわられる。クルリ…回転して。毬つき唄…毬をつきながら唄う唄。あんたがた…あなたの家。

５７Ｐ…トギ…ともだち。湯わかし…お風呂をわかす。オビキヨセ…誘い寄せ。じゃが…ですが。フントマァ…それはまぁ。ヒッツケチ…べったりとつける。グアユーセント…旨くしないと。ヒッツキサガス…当たりにベッタリくっつく。コリュー…これを。エバ…蜘蛛などの網。やんがち…やがて。ユウナッタ…よくなった。

５８Ｐ…ナカメ…中間に。シガ…人たちが。そこじゃ…そこでは。もういいで…もうよいですよ。ウスメジ…少し開けた目で。

５８Ｐ…ミリヨルト…見ていると。ヨコオーエ…休みましょう。コレジャー…これでは。ガサゴソ…何か動きまわって。ミンナヅリ…皆さんと一緒に。ワヤク…悪戯を。

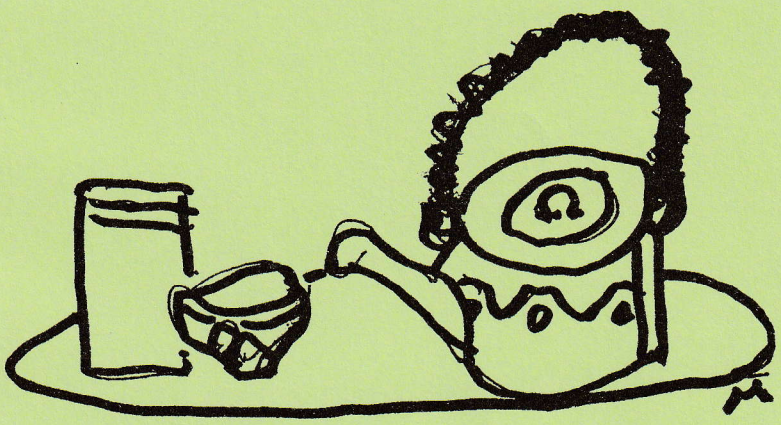
大正時代から　戦後の１０年間ぐれなじゃ　こげな遊びがユウされよったが　平和になり世の中が急に　変わって行くうちに遊びも　考えち作る時代から　既製品が出回りだした。自然遊びの中かる作らなくても　すぐ遊びん出来る　世の中ん変わり方が　急速に移ってゆく時代に進んじ　それだけ技術も進歩したごたる。

そん時代背景の米の値段は　次のように変わっち行く。

明治ん終わりにゃ　６円１０銭じゃつた…１俵の値段。
大正２年……８円３２銭
　５年……５円５２銭
　８年　戦争じ米騒動があった頃　１０円６０銭
　１０年……１４円…２０銭
　１２年　東京大震災……１０円４０銭
　１４年……１３円６０銭
昭和３年……１０円６０銭
　５年……６円２８銭
　７年　満洲事変　……８円２０銭
　１０年……１０円９０銭
　１３年……１３円４２銭
　１６年　大東亜戦争　……１６円５０銭
　２０年　終戦……６０円

米ん値段は時の経済の基本でんあった。統制時代あり配給制度ありの　変貌を通った米も　最近は消費が少なくなって　減反や輸入なども見られる　瑞穂の国にはそぐわないが　農家にしちみると不安もあっち　悲しい事でんあるが…値段は１俵あたり６０キロ価格。

民話伝承



大船おろしのそよ風嬉し

故郷はどげな辺鄙でん　住めば都の味わいありの　例えでんある。昔は２０戸あまりん集落が　古老を中心に仲睦まじく住まいする奥座敷。冬こそ寒さがあっても周囲の　木立ちはそん寒さかる守っちもくるる。夏にゃ大船おろしん　微風に作物もゆう出来よった。適材作物が感謝しちくれよる。

神様宮にゃ祭り太鼓が響き　崖にしつらえたお堂にゃ　８８遍路道ん札所もあっち　人ん行き来も多かった。細い水路に流ち来た水が稲も育てち　江戸期間にゃ２７石年貢が　記録もされちょる。人々が努力する時そこにゃ　きっと幸せ人生も根づくもん。頑張った証は残るもん。

若い娘たちん着飾った　盆の踊りにゃ向こう谷かるも　見に来る踊りに入るんも田舎らしい　季節んいざないでんあろう。若い人たちん交流にゃ　そこに夢があっちロマンが　育ちいつか実った花も咲いたもんじゃ。『こいさ向こう谷ん盆踊りで』『じゃつたなぁ　いくかえ』『いこうえ　しこしな』

昼の仕事もそん気じ手間ゆう　区切りぅつけちょる。親もそり気づかぬ事もねえき　夕飯『ダンゴ汁』も　いつでん食わるるごつ　母じょうが気をきかせちょる。それなりん顔にクリーム　押しなぐっち　それが又ええらしい　日ごろせんき化粧がゆう似合いよる。

足もつぅ気をつきーや　親も気が気じゃねぇ『ひょいとスリャノヤ』『……ちゃーら』　親父が期待しよるぬ　母親は早えがえ　ち打ち消してえんも　ゆう解るごたる。向こうかる大声が聞こえでーたのん　『まだ来んのか』ち　いわんばかりん呼び声じゃろう。

『咲いた桜に　なで駒つなぐ　駒がいさめば　花が散る　アラヨイショコリャ　ヨイヨイ　ヨイヨイ　ヨイヤサー』　口説きん旨いしがオルンカ　声があっちこっちん　山にコダマしち　ここまじ聞こゆる。そん声につられち　踊りん輪が　賑やこぅなった。踊り上手な　娘をうちん　一人息子にもらいたい　そげな親ん切ない　願いも交錯しちよるごたる。

涼しい風がチット汗ん　流るる白い肌を　スリヌクルと　心持ちがゆうなっち　気持ちまじ上気する。『早ぅお茶ぬーじくんなぁ』　誰がしこしたんか　間をおかせんじ　茶がくばられち　時ん間にクルリット輪が出来た。昼間は黒汗流しちまじ　ハリコムんじゃろうな　夜風が洗い髪まじ　揺らすと妙に　色気が仄かに沸き立ちよるんも　若いからこすんこと。

今年ん暑さはコタエンゴツ　暑いけんど　ソレダケ作はゆう出来るごたる。百姓は天気しだいん　博打んごたるが　それでん自然はゆうしたもんじ　秋にゃチヤント　実っちくるるき　今年も秋ん取り入れが　楽しみになる。忙しゅなる前になると　なしか黙っちょつた　祝言があっちこっちある。

『あっこんしゃ　人手が増ゆるんと』　どっかる流れでるんかいつんなかめーか　近所は知らんでん　遠ゅうしがもぅ知っち噂は時の間にひろがる。『歩くちゅうたなぁ』『おおきに』　誰かる聞いたんなは　聞かれんが内心嬉しいな　皆おなじ事じゃき『まぁよろしゅ　お願いします』と　決まり文句が始まる。

『やつぱそうじゃつたんな』　『あん時んあれじゃなぁ』　噂が飛び跳ね広がると　元入りもするが　忙しいセットにゃ　手が揃うき今年ん秋は万歳じゃのぅ。豊年満作になっち　そり子ども生まるりゃもう　御の字じゃのぅ。『そんうち　お前方も言わるるんじゃねぇ』『……』　そこは言わん事に。

芝居見物に心も和む

栗灰に上がっち今畑まじ　ケックシャ遠いごたるが　夜道ちゃ陽は暮れんち言うごつ　夜中に歩くななんか気にも　苦にもならん若ぇしたちじゃつた。今畑じ芝居があんのと　ち肝いりが言うち来たもんじゃき　もう『今日はしまい仕事』に　しゅうち親も心得ち若いしに花を持たする。

案内があると互いに務めあうんが　近所村どうしん付き合い。『早ぅ夕飯食ゃいい』　親にせき立てらるるごつ　残り飯ぅ口ぃサぜコムと　『腹がおけたきもういい』　寒くはなかろうが帰りにゃ　チッタヒユルド　若いもんにゃもう　そげなこたー通じんごたる。顔ぅのんぼりクンダリ洗うと　糊ん効いた浴衣に着替えち　トギン家につーじ行くと　そんしも来よった。

『お花ぅ持ったか』『おぉちった軽いけんど』『いいわい皆んなじゃろうき　そげ務めんでんよかろう』　窪道ぅ急ぎ足じ行くと　若い娘たちも先ぅ急ぎよる。『お前どう早ぇなぁ』『りゃーあんたどうも行くんな』『そうとん　行くと悪いか』『そうじゃねえがえ　帰りゃ連れち帰ってな』『いいとん　お利口にしちょかにゃ』『チャアリャ　ソリャこっちが』『何や』『いんげ　こっちん話』　がやがや賑やけぇこと。

栗灰かる今畑に出る窪道ぁ　坂が急じゃきソぜガひじい　もんじゃき今畑んしどうが　石畳をちっと敷いち　狭えけんど歩みゆうなったが　何様すぐじゃきぐ雨が苦になる。雨が降りゃ土が流レチ　崩ればき踏み固めんと……それにゃ人が通るんがいい。そこじ田舎回りん芝居を　ヨダッタ。

周りん人たちもそげな訳なら　芝居見物じ踏み固めらるりゃみんないいこちなる。両方いいんが頬かぶりち言うが　こん芝居もまさにそん通りじゃ。

『今日はオオキニ遠い所かるゆうまぁ』　請元ん挨拶かる幕が開いた。久しぶりん芝居にもう　面白いヤジも飛ぶと　真面目顔になっち泣く真似…『ムゲネエノウ　ほらお花ど　ハリコメヤ』　カンイッパツ　途中でん『花のおん礼申し上げます』と　大声が飛ぶと誘われた　物固いシタチが　次々とお花をサイデータ。

芝居は久しぶりじゃき　中身はとにかくオモシロ　おかしゅに進んじ行くもんじゃき　予想以上ん『お花』は　請元に集まる。助けあいじあん石畳道が　固まると行き来も楽に　そんぶん仕事もハカドリ　能率もあがっち　もう嬉しい笑顔が見らるる。そっと楽屋に入っち『世話かけたがよかった』と　涙声がもれた。

『これかるしばらく中入れ』　お決まりん時間になっち　あっこっちに重箱が開かれた。近所顔見知りが集まると　つい御神酒も回って賑やかな　空気が芝居と助けあいん　集まりに美しい花を咲かせたごたる。『こっち来ち　イッパイどげーな』『おおきに』　勧められてもそこは　場所柄遠慮する若いしたち。

雰囲気がいいだけに奮それが予想以上に　美しい場面ぬ作りでえち　純粋な若者の優しさが　垣間見られもしたもんじゃ。これかる里ん世話をしち行く　若者がこげーシュント　しちょりゃもう素晴らしい故郷に　変わっち行く事じゃろう。影かる眺める年寄りたちも　目頭を熱くぅしわよった。

『これより切り狂言でございます』　触れが渡ると今まで我慢しチョツタ　若者の気持ちも惜しまるる　時間に急かせるごつ心が揺れ動きよった。『元気しちょりよえ』『おおきに　遊びきよえ』『仕事んキリガついたら行くき』『本当』『待っちょつてな』『待っちょるき』　ここまで言うと俯いた　悲しい時間の過ぎるのは切ないが　涙は禁物に若いんじゃき。『あい』懐かるそっとでーた　手拭いは愛の印かん知れん。

水番小屋のモクセイ

井路の定盤は厳正なもんじ　あったもんじゃつた。そん禁を犯しどますりゃもう　厳しい罰が待っちょる。井路ん本線に残る石づくりは　もう少のぉなっちよるが　今畑にゃ『手鑿』じ　彫っち穴を開けたなぁそん物が　百数十年の水ん流れを守っちょる。三助さんがん苦労ん跡が消えち　行く中じ大変素晴らしいこと。

水番小屋に秋にゃ香ぐわしい　花モクセイは文政年間《１８２０年頃》　に植えたもんじ２００年ほず　前んこちなる。そん頃は日本の総人口が５５００万人　米一俵６０キロが２０円　原内閣時代じゃつた。郡代官が井路見地に　出向いちこん事務所《小屋》じ会議を開いたち言う。

そん時記念に植えられたごたる　上手にもモミジが　植えられたごたるが　井路修理ん邪魔になるき　最近切られたようじゃつた。モクセイはそんまま残されち　今も当時んいろいろん　話があった思いでんあれこれゅを　そっと胸に納めちょるとか。物言わぬから聞きたいんも　人情でんあるが　聞かぬが花とん言う。

水番小屋ん中にゃ当時設計ミスじ　流れが悪ぅなったヌキん　中に樟じ作った『箱井路』が　今も保存されちょる。樟は土中でん１００年以上もセワノウジ　やんがち石化するち言わるる。当時そん技法じ作られたんか　石化しち今もそん固さを　保っち保存されちょる。ええらしムゲネェゴタル。

当時ん測量技術としちゃ　長い距離ん起伏や谷も多い　そげな山谷を潜っち来ただけに　そん苦労は並大抵じゃ　なかったはずじゃが　だけに持ち応えたそん　気持ちもゆう解るごたる。時にゃ水が来んもんじやき　ヘッケモッケした役人。じゃがヒョカット来た。悲喜こもごもん事務所じゃつた。

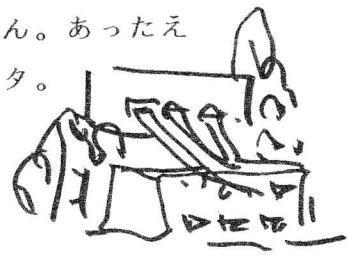
それかるも何べんも工事したり　変更しちみたりしち　えーと順調に流るるのも　水も慣れた水路と　使う人間の扱い方なんかが　要領ようなったんかん知れん。水はおとなしゅ器にでん　従うもんじゃが　松ん根元でん堀くり捜しちでん　流るる力があるき　とてん油断はならんもんじゃ。

そげな昔日ん苦労した資料を　見ると先人が涙ぐましい　世話をゆうまあしたもんじゃち　改めち頭が下がる思いがする。定盤じ本線と別れ別れになった水は　『イビ』を通っち　水田に注がるるがはるばる　長湯かるここまじ来たのん　巡り会わせた宿命でんあろう。

三助さんが野津原にも　麦より米をガイト作るごつ　工面した水を上手に引っ張っち　湛水顔ぅ出えた時にゃな　もうどんくれ嬉しかったか。3つん井路作りに執念ぬ燃やした。途中の浮動岩どまもう　情けねえごつ困っち　もう終わりかち諦めかけた。がここまじ来て止めたんじゃ　野津原ん百姓しに済まん。

もう後は神仏んご加護ち　覚悟決めち祈りあげた。うとうとした瞬間ふっと　仄かな幻ん中に浮動明王が　浮き出ると『これこれしかじか』と　教えを授かった。もう後は死に物狂いに　取り組見事そん願いが天に通じたんか　焼いた大岩にかけた水　噴火んごたる熱風に忽ち　大岩が瓦礫になっち物の見事に。

あん時があったき今がある。三助さんは途中まじじゃが後は継ぐしがちゃんと仕上げち　田んぼにゃ今年も田植えが　終わっちワクドどま澄まし顔。投げた苗も宙をつーじ　程いい所い落てた野津原村じゃ　田植えが始まったで。もう根づけ半作しゃきな。今年しゃ天気もいいごたるき　豊作間違いなしじゃろう。田が一枚ねぇえョイトすりゃ　小昼ん包みん下にありゃせん。あったえ『あぁもう　ヨカッタナァ　誰か食うたんかトモウタ。



方言説明

６１Ｐ…どげな…どんな。くるる…頂く。おろしん…吹く風に。しつらえち…作って。年貢…幕府に納める米。かるも…からも。いざない…移り変わり。こいさ…今晩。じゃつた…でしょう。いくかん…行くかも。いこうえ…行きましょう。しこしな…準備して。母じょうが…母親が。押しなぐっち…無理にぬって。せんき…しないので。ひよいとすりゃ…もしかすれば。ちゃあら…あらまぁ。でえたのん…出したのも。来んのか…来ないのですか。

６２Ｐ…咲いた桜に…美しく咲いたのに　馬をつなぐと暴れたりすると　折角の美しい花が散ってしまい　惜しい……。うちん…うちの。チット…少し。スリヌクル…するっと抜けて通る。ぬーじ…飲んで。しこしたか…準備したの。クルツト…周り一面。ハリコム…頑張る。コタエンゴツ…大丈夫だから。ソレダケ…それだけに。なしか…なでですか。あっこんしゃ…あの家の人は。どっかるか…どこからか。やっぱ…やはり。そうじゃつたんな…そうでしたか。あん時んあれじゃなぁ…あの時の話ですね。セツト…取り入れ時。

６３Ｐ…ケツクシャ…結構。じゃつた…そうな。花を持たせち…祝儀を持参させて。サゼコム…無理やりの。おけたき…満腹になったので。チッタヒユルド…少しは冷えこむ。そげなこたー…そんな事は。クンダリ…下向いて。りゃああんたどう…あらまぁあなたたち。そうとん…そうですよ。そうじゃねぇかえ…そうではないですか。いいとん…よいですよ。チャーリャ…あらまぁ。ソリャーこっちが…それそそれは　こちらで。いんげ…いいえ。ソゼがひじーき…傷みがひどいから。すぐじゃき…作って間がないから。ヨダッタ…主催した人たち。

６４Ｐ…オオキニ…ありがとう。ムゲネェ…可愛いそう。シタシガ…した人たちが。さいでーた…差し出した。

６４Ｐ　カドル…進む。中入れ…芝居の途中の休憩時間。こっち来い…こっちにおいで。どげーな…どうですか。シュント…静かに縮こまって。シチョツタ…していた。キリが…くぎりが。あい…はい。でぇた…だした。

江戸期間の年貢制度があり　地主でんそん中かる納むる。じゃき米が出来たら　小作人かる納められたうち　決まった分な年貢米としち　幕府に納むる為に運び出す。荷車なんかは　いい方じおおかたは牛馬ん背に　乗せち山坂あんげこんげする。荷運びするんも銭取りじ　助かるこちもなる。人生双六じゃつた。

米蔵が近かりゃいいが　遠いと天気の心配やら　道中のあぶねえこたーねえか。田舎ん地主にしちみりゃ　悩みん種でんあった。慣れた道ならいいが　ときたま回り道ん時もありゃ　山道ん日もあっち若いしやら　力ん強いしがまとまっち　行くこちなるんも決まったごたる。

無事送り納めち帰ったら　地主も迎えちくれ　ナオライもあっち　ほっとするが　クタビレが中々ゆうならん　そげな事もあるぐれ緊張したそうな。じゃろう　途中じ悪い泥棒にでん　出会うともう大事じヒョイト　取られどもすりゃもう　孫末代まじマドエングレ　ひじ罰あうこちなる。

百姓はそんくれ苦労もしよったが　地主次第じゃとてん大事にされた　そげな例もあっち　心ん絆がありゃもう　世の中は楽しい事でんある。働くたぁ『ハタをラクにする』ち　文字んごつ周りを楽にしちょきゃ　やんがち自分も楽ぅする　それが周り回って戻っち来る　人生双六でんあろう。

年の夜に小作人を招いち　ねぎらい土産の餅を配る　そげな心ん優しさは次の年も　田畑が真剣に作られ　実りも豊かになる。

懐かしい昭和１０年頃の　夢とロマン

戦争がくり返されち　生活ん環境はもう戦時体制と　イッチョも変わらんごたる日々。暮らし慣れた子どもたちも　食い物かる着るもんかるそげー　ミスボラシイ格好でんねぇ。貧富があってんソリャーもう　生まれちーた頃かるん　当たり前んイノチキじゃき　そげー気にも苦にもせん。

チョロット並べさげーちみると　朝は味噌汁に漬け物　そりー梅干しでんありゃもう上等。麦飯じゃきチッタクリーが　それも慣れたもんじゃき。漬け物ぇ　まぁタクアン、タカナ、キュリ、カンラン、ミソヅケ。味噌汁も具は　あり合わせん野菜。いいんなイリコ出しじゃき　味噌も麹じ出来ちょるき　ナエフント。

昼飯ゃ　チット手先ん白和え、イリコ味噌、酢和え、トージン干し、セリどま付くと　香りが千金。夕飯ゃもう定番の　ダンゴジル、これがどこでん人気物　チュウカ仕方ねぇ食い物。それも食えるりゃいいほう　時にゃ朝昼ん残った飯やら　サイなんかんイッショに　入った雑炊。オジヤじゃつた。

それでん時たま　トロロ汁、売りに来た塩魚、祝い事じ貰うたアズキ飯。年寄りん知恵ん　ジリビヤキ、ヒヤキ、ヤセウマ、が出ると　ヒロヒロセンデン　心ぁ浮き浮きしよる。『ほら大けなんは　コンメー子にやるかのぅ』『あい』　嬉しそうに返事しよせん　茶碗ぬサイダス。

タマゴを生んだ朝でん　買うしがあるき『売っちコンだ　服ぅ買わにゃなるめーのぅ』『……』　しかたなしん　コンメー返事が返った。卵なんか売るもんと　覚悟しちょるが　病気ん時には　お粥に梅干し卵ん３品セットが揃う。じゃき牛乳、バナナなんかは別世界の　もんち決めちょつた。

６９

こげな生活でん心は豊かじゃつた。親子兄弟姉妹と　スクノウデン１０人ナ　オッタキ賑やけーこと。子どもが１人ぐれ　夕飯オランデン気がつかん　茶碗についだ飯が　残っちょるぬ見ち『こりゃー誰がんか』ち　見回しちエートオラン　のに気がチィチ　『アリャどき行ったんか』『ふんとなぇ』

そうこうしよると　ヒョロット帰っち来た。『角んバアサンがくれたで』『なにや　オオキニチ言うたか』『言えとん　そしたら夕飯食えチ　ヨバレタ』『セワナシジャノゥ』　家族みんなじ大笑い。こん子はユウ怒られち　泣き泣き出ち行くき　じっと見ちょると　角に入った。逃げ場じゃきか　アッコンシモむげねぇんじゃろう。

そん頃ん子供ん食い物にゃ　アラレ、夏ミカン、ユズ、トイモ、干し柿、火焼き、甘茶、イチゴ、ウドン、ヤセウマ、サトガラ、ギシギシ、ビワ、モモ、コガシ、ナシ、ガラメ、アケビ、クワの実、シイの実、天保なし、グミ、ヤキコメ、ナンカはすぐ手に入りそうな　家でん適当に準備シチャツタ。

駄菓子にゃ　センベイ、マンジュウ、ヨウカン、ニッケ、アメガタ、コガシ、ハッカ菓子、ビスケット、吹き寄せ、キャラメル、一里玉、ニッケ水、紙ニッケ、氷砂糖、いも飴、コンペイトウ、オシモン、オコシ、生姜糖、水飴、なんかがあっち　１銭貰ぅち買いもん。宇曾さんまいりにゃ　２銭もらゃイイホウじゃつた。

農家も麦の銭が入る盆と　米の銭が入る正月が　節期とん言うちこん時に決済が多い。出来ん時にゃ待っち貰う　『つけ』にシチ節期払いが多かったごたる。それでん厳しい経済ん中じ　心は貧しゅならんごつ　家庭ん躾は厳しいき　ヒネクレハ少なかったようでんあった。

盆のシマイが出来てん　盆から正月そしち年越しまじ　大けな銭もいるんじゃが　米が出来りゃソレジ　収支ん清算が出来りゃいいほう。どしてん年越し゛無理になりゃ『年越しまじ』と　無理に頼んじ借るこちなる。利息ん払いはあるけんど　背に腹ぁ変えられん悲しさ。でん元気しちょりゃ　又いい事もある。

毎年借り換えしちゃ何年も　デン頑張ったもんじゃき　米がゆう出来ち払いが出来た。『無理にお願いしちょったが　今年しゃなんとか返せるき　利子と一緒にお支払いを』ち　頭下げち払いに行くと丁寧に　桟敷に通しちくれた。なしじゃろうか　ちっとタマガッタが　『きちんキチンと利子は　押しちょつたき　今年分は利子ゅマケチョクナ』　『イインジャロウカ』　『いいぐれかユウ頑張ったなぁ　これヤウチ皆んなじ食べて』と　京物ん菓子包みが風呂敷に。

真心が伝わったご褒美じゃろう。雨降りにゃ泥はねしち　帰る子どもぅ見ちムゲネェガ　じっと見守ったんで。ゆう皆んなじなぁハオカンダナ。『お陰じ子どももゆう　加勢しちダカイしたり草きりやら　子守りやらダンゴシルモ　けっくしゃ上手になっち　そりー病気もせんじ。『じんさん　ばあさんが躾ゆう　やうちが気揃うち働くきで』

家に帰ってこんこつ話すと　『ふんと有難えことじゃのぅ』涙ふきながら　『何でん役立つごたる時にゃ　手をださにゃの』『皆んな　おみやげヨバリュウヤ』　アカリイ笑顔ん声が響く飯食い場にゃもう　やうちミンナヅリ座る。『じいさんかるな』父親が風呂敷包みかる　分けち渡すと『俺はいいき子どもにやれ待っちょるじゃネエカ』　『インニャこりゃ年寄りかる先に』

子どもも承知したちイワンバカリニ　ちょこっと座って待つ。元気じ働いたかるこす　こげなご褒美も頂ける嬉しさ。

子どもん楽しい行事もある。農家ん格差は仕方ねぇが　心まじゃ貧しくはならんよう。小作はたしかに小作料として　米を納むるがそん代わり田畑を　作らせちもらう。土地を持つシタチャそん土地ん管理はせにゃならん。米づくりにゃ水路もいる。水路は冬は使わんけんど　ヨコワスル期間でん　いつもコワルル心配を　しちおかにゃならん。

コンメー水路でん人並み　ヨコワセントさぁちゅう時ん　カキアワンジャなにんならん。そん中目修理したり　用心水も流さんと枯れたままじゃ　こんだシカケタ時　水漏れどますりゃ　それこす困ったコンニャクになる。そげな先ん事まじ考えち　小作人とお互いに助け合う。つまり作らせてもらう　作ってもらう同志ん絆にこすが　土地利用ん頭ん　使いようじゃろう。

春と夏にゃ弘法大師のお接待がある　あまねく施す心情を世間に　広めちお祭りぅする時　子どもがお接待を貰いにくる。公平な施しに目を輝かせち　子守りする子どもにゃ２人分を　そげな行事は天真爛漫に　子どもん気持ちは安らぐ。秋の名月にも収穫ん実りに感謝して　供えたもんを誰でも　ハズシチ貰う公平な心ん行事。ここにも純真な子どもん　優しさにご褒美を。

亥の子行事は秋の収穫に感謝　穀物の被害を防止した　子どもの元気な姿ん出番。藁ボテで地面を叩き　害虫をそがいする願いが　童心を通じち込めらるる。配る接待の餅も子ども心に　傷つけんごつ平等に家族にも　延長しちそん恩恵にしたる。風物詩としち継承されちょる。新しいモチゴメん餅　神様んご褒美。

火とぎ行事も新築棟上げに　火を遠くに飛ばして　厄よけ祝いを皆にシチモラウ。子どもん歓声はまさに　その家繁盛ん祝い唄でんあろう。祝い愛でたやこの家の　いや栄でんある。施せば報いに変わるまさに　人生双六でんあろう。

方言説明

６９Ｐ　イッチョも…少しも。かる…から。ごたる…ようです。ソリャー…それは。チョコット…少し。並ベサゲーチ…ちらかして。チッタ…少しは。カンラン…キャベツ。ナエフント…でしょう。どま…など。チュウカ…言うか。サイ…副食。ヒロヒロセンデン…食いいじ張らずとも。コンダ…次は。もんち…外の世界。

７０Ｐ　オッタキ…いたので。オランデン…いなくても。チーチ…ついて。ヒョコット…急に。オッコンシモ…あの家の人も。１銭…１００分の１円。つけ…借りを記録して。

７１Ｐ　シマイ…決済。ソレジ…それで。タマガッタ…吃驚した。イインジャロウカ…よいのですか。ヤウチ…家族。ムゲネェ…可愛いそう。ハオカンダ…努力した。ダカイ…牛馬の世話。ヨバリュウカ…ご馳走になろうか。ミンナヅリ…連れなって。ネエカ…ないか。インニャ…いいえ。

７２Ｐ　シタチハ…人たちは。ヨコワスル…休憩させる。カキアワン…まにあわない。シカケチ…水を通して。ハズシチさげて。シチモラウ…シテイタダク。

昭和１０年代ん大分県人口は《１９３５》⇨９８０４５８人。当時ん男子生徒は夏帽子にゃ　まっ白い日覆いを　かぶせよった。女生徒はブルマ、ズロースになり　横かるいかばん。風呂敷き包みなんかが。紙貼りん雨傘　柔らかなあめ靴も。祭日にゃ袴をハイタ姿で　奉安殿に納めてある　天皇皇后の写真を白い　手袋つけた校長先生が　うやうやしく運ぶと　礼をして迎え送り講堂に安置。式典が始まる。歌の前には決まって　咳払いするのも式典らしい　雰囲気でんあった。

あれかる８５年余り世界は　変貌の繰り返しで　日本ばかりか大分県でん　様変わりしちょるごたる。

さかしかりゃ長生きしてんいい。それにゃ健康じねぇと　話にならんごたる。医者も大事じゃが　何ちゅうてん自分がん　自助努力が一番じゃあめーか。それにゃ心が豊かじ　明るい笑顔も又いいもんじゃ。くよくよしたてん　なるようにしか　ならんが世の中でんある。人に心ん施しゃ　やんがち報いもあるもん。

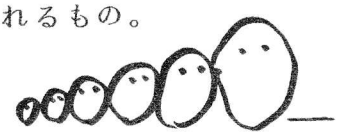
人間な一人じゃ生きられん　人ん世話にならんち威張るしがほんな最後に自分じ　着替えしち棺に入っち　葬式が出来るかえなぇ。最後まし人ん世話になるんが　一番『世話にならん』ち言うしかん知れんもんじゃ。となりゃ常日ごろかる　人ん為にななるこつう　積み立てちょく事じゃろう。

今出来る生きた証ん恩返し。あの折に受けたご恩のお返しを。
善行をそっと隠しちする心。今そこにあなたん出来る愛の行。
善行は勇気と共に思いやり。お互いの心嬉しや善の行。

特に高齢になると思い通りに行かぬ　そんな苛立ちにもなる。が　焦っては元も子もなくなるもの。自分に出来る事を　好きな事を継続すること。自助努力は脳に刺激を与え　脳ょ浄化してくれる。使わないと退化してゆくらしい。不便に慣れる工夫も大事で　甘えも限度があるので　欲張らないことが自分の　健康な体づくりの妙薬かん知れん。

裃を脱いで目線を下げて　庶民生活に溶けこむ　肩書きや学歴は現役時代の　名刺に過ぎないがその　博学能力は最大限に生かす事で　庶民生活の万年暦の　役割は果たせると思う。知ったかぶりより奥かしい　図書館的な支援の情愛は　重宝がられて自分も　生きがいに楽しい人生。

健康な心身の生き方で　老化に合わせた無理のない　若さを保てるのは最上の　幸せ人生と思うが。素直な心は可愛いい年寄りとして好かれるもの。



平成３３年《２０２１》になると　思い出す教訓が甦る。６５年前の昭和３１年は　平和がしっかり根づいて　これからの時代だったが　衣食住に恵まれ経済も　ゆるやかな時節到来だった。しかしそんな時代になると　つい気持ちも緩みがち　浮かれて心まで天下泰平に。

心配する人たちの間からは　『一億総白痴』の懸念がひろがる。時期に合わせて勤倹貯蓄ならば　ＴＶ、冷蔵庫、洗濯機が飛ぶように売れて　生活も華美になりがちだった。定年退職者も悠々たる　時代を謳歌していたよう。将来を見据えた施政なら　困難にも立ち向かえるが　無い袖は振れないの例え　行き詰まると共に連鎖する最近の類い。

平成２３年《２０１１》には　東日本に地震と大津波　おまけに絶対と言っていた　原発発電所爆発で放射能もれ。住めない地域や疎開地域など　被害が甚大であったが　この時代を中心に大きな災害が頻発している。神話が壊れ神国も　八方塞がりの寒空には大雪の　洗礼まであって被災地は　家族も別離の生活が強いられていた。

世界各国からの救援は有難く　今まで被害地に施した　暖かいお返しが目頭を熱くする。それでも生活の立て手直しや　教育や医療にも思い切りな　手立ても乏しくて　仮住まいの人たちの不安は寒空にいつまでも続いていた。特に放射能被害は当分の間は油断も安心もできないよう。

それでも支援がある心丈夫さは　今も不安な日々の人たちには　まさに救いの神でもあった。年金基金の利用で失態も浮上モラルも　平気で予想以上の被害が　尾を引いているよう。金の有難さを通り越した　心の乱れが庶民まで苦しめる　禍根がのこる嘆かわしい時代に　まさに『総白痴』が　暴れ回る失態を見る思いがしたのでは。忘れた頃にやってくる。

『知らんことの多い人生』

９年前の東日本大震災は　予想しちょつたはずじゃに　後悔先たたんの公表がいつも　遅るる意識的じゃつたんか。指針をしっかりしち　いつ誰が何をするんかを　きちんとせにゃ後じ　どんこんならん窮地になる。だけじゃのうじそん犠牲は　いつも一般国民に皺よせされよる。

そん時にピシッとらしさを　示しきりゃそん時にゃ　オラビタクラレテン　功績はあとかるついちくるもん。がそん時がオジイき能ある鷹が爪隠すになっちょる。一期間に総理大臣が　何人も変わるなんかまるで　テズナみたいな芝居は　もうハヤランもん。いつまでん昔ん人間だけじゃねえ　近代化ん社会そげー　オトナシイしんじょうじゃねぇ今ん社会。

七瀬大学ん講演じこげな話。聞くよりか目が覚ゆる　特権が人間にゃある。メモは取ることもいいもん。見た目は５５パーセント、声は３８パーセント。声は思いよりゃ大事な現れ、顔だち、顔つきじ違うが　顔は変わり続くるき　油断な禁物でんある。そん点に目は大事にさるる　目は口ほずに物を言うから。

はい⇨拝む、配る、背筋、の気持ちが欠かせんもん。言葉は聞く時に正確に聞かないと　上の空じゃひんしゅくも買う。口ん治療に外来したしが　口をあくるごつ医師が言うた。確かと思うてん多少耳が不安。『口紅拭いてください』を　『口笛吹いてください』と　聞き間違えち思わん　笑い話も現実にあった。

メモ取ることも口もとを　動かす事も相手を信じ　信じさするのん　心が通い合うこちよっち　叶うもんでんある。それが又自信にもつながる。記帳するなぁ信じあう　証でんあろう。記憶にも残せいろいろな時ん　参考資料にも役立つもん。

先人に感謝しち積み上げた　進展の流れん世相に　合わせた人材育成なんかを中心に　労力、知力、行動力、指導力、自然保護、なんかを通じて　長年活動しながら　いつも影で努力した　人たちの功績に　報いる環境制作の　ありかたも　皆んなじ賞揚してあげ　万年暦としてん　博学をさらに　役立てち貰いたいもんでんある。

また後輩としち受けた　糧にゃ利子をつけち　返す気持ちの浄化連鎖も作り　継承することじ　社会環境はさらに　明るい住みよい社会に変貌しち行く　事にも連なるんじゃ　なかろうか。付加価値んついた　生活向上、融和、心豊かな生活水準、それらを維持する　知恵、博学を出しあう　自然の摂理を回転させて　出し惜しみしない　勿体ない能力を　生かしてこの世で　使いお返しにされる　それこそ報いの種にも　なるものです。

方言説明

７４Ｐ　さかしかりゃ…元気でいるならば。ねえと…ないと。ちゆうてん…と言うても。いいもんじゃ…よいものです。やんがち…やがて。ならんち…ならないと。となりゃ…とすれば。なるこつぅ…なるように。欲ばらんこと…必要以上の欲ははらないのが　身のためでも。欲を覚えるとさらに欲しくなるのが　世の常でも。知ったかぶりより…しっているのは素晴らしい　でも知った振りは失敗不審につらなるもの。※　知ったふりふりしらないので　聞くのが正しい生き方。可愛いいとりより…好かれなくても嫌われない　そんな年寄りは幸せ人生です。

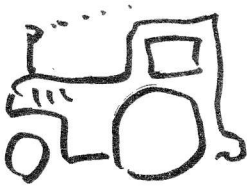
７５Ｐ　飛ぶように売れて…景気が上昇すると自然　購買意欲も高まる。衝動買いもあるだろうし　負けず嫌いもあって　一気に景気が浮上する。神話…架空の物語にややもすれば乗せられる。神国…昔からそんな傾向もあったが精神がしっかりして　いれば正誤は判断出来るもの。夢やロマンも時には効果あり。心ん乱れ…つい邪まな考えには走ったり　景気がいつまでも続くと早合点する弱い人間もあった。

７６Ｐ　しちょつた…していた。どんこんならん…どうにもならない所まで。だけじゃのうじ…だけではなくして。オラビタクジッチ…大声で叫び回って。オジイ…怖い。テズナ…手品。ハヤラン…時代相互、流行しない。

高齢者は自助努力で長生きも出来た　が人の助け、支えもあって人間生涯が　形成もされちょつた。知的才能は　生きる連帯心などは　さらに再利用すべく　磨き活動出来るパワーとしち　継続する人たちに注入　故郷発展に利用すれば　宝物としち使えると信じています。

たった一度きりの人生　あなたん知力　博学はまだこれから生かしてほしいもの　宝物なのです。待ってちょる　多くの人たちん為に　活用しち社会に　お返ししちこす　そん価値観も生まれ　生かされると信じちいます。施しに報いるなによりんお返しち　思います。

提灯に釣鐘ちよく言います。釣り合わないの意味も　ありますがたしかに　こん２つは釣り合わないかん。でん２つがある、き　不釣り合いも分かるんでしょう。じゃき対象になる。じゃき役立つ必要な　もんなんです。役立つちょる、最大の相手なんです。



野津原方言集

野津原方言單語ひろがり

79　　マサハル

★★　野津原で使われている　野津原方言は必ずしも　野津原で生まれ野津原だけで　使われているものでは　ありませんが今の野津原方言であれば　それを由として記録掲載　継承していつまでも　野津原の方言として　大切にしたいと思って　掲載し続けています。

方言集に掲載されはじめたのが　平成４年の取り組み開始からもう　２８年ほどになりますが　次々と集まるものは全て　掲載して残す事にしています。ですから中には方言でないかも　また卑下するような言葉　差別用語などもありますが　方言集の性格上出来るだけ入れてあります。それは先人たちが生活用語　として大切に使っていたからです。

古い時代は文字の書けない　人もいらっしゃいますが　それは言葉があれば生活に　不自由がなかったから　いわば方言は言葉の生活文化なのです。ですから同じ語であっても　内容が異なります場合もあり　前後の言葉によって　大きく変わる場合もあり言葉とは　そんな優雅な面白さもあります。

また野津原で使っている方言で　全国各地でおなじような　意味につかっている言葉もあります。生まれが他国で平気で使うそんな方言もあり　調べてゆくうちに妙味もあり　親しみもあり情愛のこもった　暖かな言葉もあります。すぐ側でも使わないそんな方言もあるものです。

この冊子に書き込む以前までの　方言単語が解っただけでも１６７２１語です。『あーア』から始まりこれまでに『すーズ』まで　進んで載りました。すでに通過した『字の枠』で　後で出た語句は途中で入れて行きます。ので実際は少し多い訳です。この度も珍しい懐かしい言葉に　出会うかもしれません。お楽しみにご愛読いただければ幸せです。

す　ズニノリャ……調子に乗ると、相手に合わせていると。
スニナリャ…酢になるのでは、使い物にならないのでは。
スニデンナル……最後は酢にでも、何か使い道はあろう。
ズニノンナ……調子に乗ったら、後が怖いから用心を。
ズニモノリトナル……調子のった真似も、調子合わせて。
スニナッタワイ…酢になってしまう、どうやら失敗した。
ズニノルカヤー…調子乗ることになった、失敗は成功に。
スヌケタ……味も風味もなし、ぼんやりした見かけに。
スヌゲチョル……もうこりゃだめじゃ、役立たずに。
スヌグル……保存が失敗のよう、管理が難しい。

スヌルリャ……すねて始末が悪い、気分が優れないよう。
スヌコバル少し…興奮気味になって、気持ちが悪いのか。
スネチミヨ……わざとすねばって、時には意地張りも。
スネラレテン……そねばっても、子守が難しいけれど。
スネラルリャ…気分が優れないよう、期限取りが難しい。
スネチョル……意地張機嫌のよう、わざとの作戦か。
スネテン……すねると又可愛いい、その手には乗らぬ。
スネタガイイ…すねているのも美人に、ほどほどが愛敬。
スネマワッチ…大げさに行動して、そうは問屋が卸さん。
スノモンヌ…妊娠、酢の物をほしいが、酢の物の希望は。

スノキイタ……酢のキリリとした料理、効果がある料理。
スノカブシイ……砂をかぶせて、砂で化粧する。
スノモチキー……砂を持参して、砂が必要だから是非。
スノモンダチュ……酢あえは禁止で、酢ダチ中なので。
スノモナ……酢を使った料理は敬遠、酢料理は苦手で。
スノヨセチ……砂を集めて、砂を使った作業で、砂遊び。
スノバル……背伸びして固く、背中がこわばったのか。
ズバット…ぴっしりと気持ちよく、まともに入る、狙い。
ズバウド…腹ばって、疲れ気味が腹ばいに、参った様子。

す　スバユル…乳が流れ出て、飲ませても多すぎて、しみ出る乳。
ズバリクリマウ……座り込んでじだんだ、聞かないわがまま。
スパンプ……嘘ばかり言う変人、人を騙すから信用しない。
スバエチ…乳が飲ませても多すぎて流れ出る、多すぎる母乳。
スバユルナエ……流れ出るほどの母乳に困惑、多すぎても。
スフン…ステーブルファイヤ、化学繊維、衣料革命で出来た。
スフチュー……スフともいいます、科学繊維が一頃横行した。
ズブシラン……全く知らないので、そんな話聞いた事もない。
ズブリット……落ち着いて呆れるほどの、沈着はしているが。
ズブ…よもやの話、全く、予想以上の、知らないことの限界。

スベタリコケチ……滑り転んで、油断して滑った醜態を。
スベッチ…落第、滑って危なく転ぶ、滑ったために腰の骨を。
スベツト…旨い具合に話は合わせたが、調子がよいからつい。
スベロドチ…滑るのではと思う瞬間、予期した滑りになった。
スベスベ……つるつるとした肌に、つやがよくて美しい肌。
スベランカ……滑らないの、滑って見ては、滑る機械だが。
スベランヤ……滑らないようだ、滑るのが苦手のようで。
スベリグチ……滑りはじめた時に、滑る途中で気がついて。
スベクリタリ……滑った上に転んで、すべったり転んだりの。
スボ……留守番、留守にさせられた、うまい具合に外されて。

ズボーチ……ハイながら右往左往、どうにもならぬ醜態を。
スボデンイイ……留守番でもようから、あっさり引き受けて。
ズホシン……当てられた失敗、判明した醜態の原因。
ズボウテン……はいずり回っても、これ以上の醜態は。
ズボウチョル…恥ずかしい以上の醜態、よくよくの事なのか。
スボナラ……男子の包経の様なら、若いときに見られる状態。
ズボラ……仕事嫌い、誠意がない仕事の様、努力しない性格。
スボムキャ……包経を無理に押し出させて、不衛生な。
スボニシヨル……留守番に仕組んで、いつの間にか留守番に。

す　スボニナッタ……留寸番になっちょる、騙されたようじゃ。
スボラルリャ……騙されたふりもいいか、騙され上手。
ズボーチ……腹ばいに平くたになって、寝たまま起きぬ。
スボガイーチ…留守番もいいから、ごみにもいい分がある。
スボグレオトセ…ごみくらいは落としなさい、衣服払って。
ズボウ…平らになってしまってもう、平身低頭になっても。
スボコス…ごみこそいいものが隠されて、ごみ無駄にせぬ。
スマクラデン……すみっこでも、不便のような場所でも。
スマクランジョ…片隅でもいい面もある、隠忍自重も効果。
スマクラクレ……すみっこでも暖かな、人に知れぬよさが。

スマン……すまないこしとです、泳ぎでも潜らない。
スマンコタネエ…泳ぎの時でも潜ることもある、あいこだ。
スマ……片隅、すみっこ、角の不便な場所、窮屈な場所。
スマンゴタラ……すまないようなら、潜らないようなら。
スマンケンド……すまないけれど、潜らないけれども。
スマニャコマル……潜らないと困るけれど、住めばよい。
スマンジャツタ…住まないから、気に入らねばほかの人に。
スマニャオヨゲ……潜らないなら、済まんと思えば潜る。
スマンデンワリー…住まなくても悪いし、潜るんならよい。
スマンナアトイイ……住まないようなら後はよいから。

スマコスモウケ…角っこはいいこともある、使い方が問題。
スマメンアジ…酢につけた豆の味、済まんと言う気持満足。
スマンコツ……隅の事で、失敗して、申しわけない、失礼。
スマジャキ……角ん方だから、片隅だから、不便な場所で。
スマジコス……隅だからこそのよさ、片隅の居心地は抜群。
スマシャイイ…済ませばよい、終われば満点、冷やせば可。
スマンジョレ……潜らないで、済まさないで、住まないで。
スマズマジャキ…角つこですから、不便承知で、使い様で。
スマンカノヤ……済まないだろうか、申しわけないです。

方言集…続編№６号《平成１６年版》　２００４年発行から単語を掲載続けて　平成３２年版《続編№２２号》で　１６年あまりで現在『す…ミ』に　入って計１６９１３語。この後の『わ…ン』まで　辿り着くと《平成５０年頃》５万語くらいになるのでは……。

やさしい故郷の方言　大好きだから収拾調査

野津原地区の生活用語であった　『方言』は約６０００年くらい前から　使われていたのでしょう。人が住んでいたから文字は書けなくとも　話す語る事は　動物の中でも人間だけの独占的な　特技であったからです。そして話し語る時に　心が入り情が加わるとそこには　また新しい方言が　広がって行ったのでしょう。

野津原に生まれ育った　そんな方言もきっとある。と思いますがそれは少し欲張りかも。言葉を使える私たちはそれで　気持ちが伝わり用事が達せられる　のですから生きて行く為の道具でも心の伝えあいをする　手段でもあるのです。だから感謝して先人の受け継いだ　生活用語を大事に使いたいものです。

他所からも入って来た　そんな歴史は流れています。

古くは大和武尊が熊襲征伐からの　帰途に御座岳で一夜を明かし　翌朝に朝日が照らしている　野津原の里を眺めて『何と素晴らしい里だろう　きっと平和な人と場所　これからも幸せであってほしい』と　祈念して祠を造り剣を納めたと言う。その剣は現在も宇曾岳神社に　納められている。その時に話した里人たちは　きっと都の言葉を聞いて　感じ入ったのでは。都の言葉が幾つか使われているよう。方言とはそんな形で　伝わり残されて来たのでしょう。
それでは方言単語に進みましょう。

す…スミクージ……住みこんで、安住してしまう、住み込み。
スミンホージ……隅っこのほうで、隠れたような場所で。
スミガスキジャ……隅っこが大好き、目立たない性格。
スミチーチ…住み着いた、入りこんで居着く、墨がつく。
スミミズ……美しく澄んだ水、きれいになった水、清水。
スミツキー…墨で印を着けて切り込み、大工さんの作法。
スミツバ…墨壺はどこに、大工さんの宝物、炭の準備箱。
スミクラビ…住み比べて、試験的な住み込み、対比して。
スミヤイコ……潜り比べ、息長さ比べ、潜りの競争。
スミアンベ……住み心地はいかが、住みよい環境ですか。

スミユーツケ……墨つけが仕事はじめ、いよいよ普請が。
スミユツクロエ…炭を補充してお接待、暖炉の心くばり。
スムスム…済みそうだから、住んでもよいから、潜った。
スムゴタル……潜ったよう、住むのでは、澄んだようで。
スムカンシレン……住むでしょう、済むようです、潜る。
スムギャ…麦だけの食事、麦だけ炊いた食べ物、麦だけ。
スムギメシ…麦だけの食事、麦だけ炊いた食事ですので。
スム…住み暮らす、潜っている、済みました、澄み切る。
スムジャロ……住むのでは、澄み切る、済んでいます。
スムナイイガ…澄んだけれど、住んだのはよいが、不安。

スムコチデケテン……住むようになっても、住むのには。
スメレンキ…住めないから、住むのは無理で、居住拒否。
スメニャ……住めない辛さ、潜れない悲しさ、澄めない。
スメンチュウ……住めないよう、澄めなくて、潜れない。
スメンゴタル…潜りないよう、住むのは無理で、澄めぬ。
スメ……潜りなさい、住みこんで、済むとよいのだが。
スメンカ……潜れないか、住めませんか、住んだらどう。
スメレメー……住めないよう、潜るのは無理、住むのも。
スメタカ…住めましたか、潜れたか、澄み切ったのでは。

す　スメチョリャイイ……潜っていればよい、澄んでいるなら。
スメメーガ…潜れないか、住むのは無理では、済まないか。
スモーシュウ……相撲しようか、相撲がしたいので。
スモツクレン……話にならないような事、たあいもない話。
スモシレン……呆れたような話、何ともしれない話の。
スモードチ……潜るような気配の、潜るかも知れないが。
スモウモンナラ…潜るものなら、住み込んだら、勝手放題。
スモグリャ……息が続く間の難しさ、危険が伴うから。
スモウチ…真剣暴れていたが、遊び放題では疲れは見えて。
ズモル……言葉がやや難点で、言語に障害があるので。

スモウタイワン…住むとは言わないまでも、責任くらいは。
スヤイイ…吸えばよしに、吸う事で結果も、吸わないのは。
スユカリャ……酢ぱいなら、口を絞るような食感、酸味が。
スユルゴタル…いたむヨウナ、腐敗した状態、食当り用心。
スユウジ……酢っぱさが異常に、酸味が強くて、未熟柑橘。
スユナッタ……酢っぱくなった、酸味が効いた料理で。
スユデン……酢っぱくても好みで、特殊な料理の柑橘風味。
スユデンツカエ……酢っぱくても利用が、利用方法では。
スユルカン……腐敗するかも用心を、イタミニご用心を。
スユノウナッタ…酸味が激減して、酸味の少ないあっさり。

スヨブル…母乳が垂れるように多く、勿体ないような多乳。
スワッチヨラ…座っています、座れますから、座れるよう。
スワムキャ……咳き込んで、咳にむせて可愛いそう。
スワリキリャ……座れるなら大丈夫、座れたよだから。
スワッタンカ……座ったのですか、座れるようになった。
スワルリャ…座れていると、吸われていると、座れたなら。
スワレテン…座れても、吸われる喜びは、通う合わないと。
スワンデン…吸わなくても、吸いたくない、吸わなくとも。
スワンゴタラ……吸わないようなら、吸わないしまうから。

69

す　スワブリャ…吸いついて、真剣に吸われると、赤子の乳のみ。
スンデンコチ……あわやとおもうような、いい按配に逃れた。
スンジョケ……潜っていなさい、済ませて、終わらせておく。
スンダソベ……澄んだばかりなのに、済んだと思っていたら。
スンダラユウキ……終わったら話すから、済んだら次の。
スンダンカ……澄んだのですか、済んだようなら、住んだら。
スンジョケ…住んでいれば、住むようなら決めて、終わりに。
スンタラズ…少し短いので、企画から外れて、少し不足気味。
スントリュ……計ってみますから、測量検査、合わせて見る。
スンナリャ…簡単にはなかなか、調子よくは、旨く行くかな。

スンジコス……済んだからこそ、終わったから、澄み切った。
スラゴツ……遊びに、掛け値なしの遊びで、文句いいなし。
スラスラ……いとも簡単に、順調に、言いごとなしで解決。
スラリクラリ……あっちこっちと決まらず、のらりくらりと。
スラットシチョル……きちんとした姿勢、清潔感の姿勢。
スラド……お遊びだから、掛け値なしの、文句なしに。
スラナラ……お遊びなら、冗談まじりの取引、掛け値なしに。
スラデン……お遊びでも金銭はきちんと、取引は紳士的に。
スラ……掛け値なしの取引、気持ちのよい取引に。
スリクウジ……すりこんで、水に飛び込んで潜る、塗込む。

スリクウダ……刷り込んで安心、塗り込めば心配なし。
ズリアガッチ……動き回りながら上がって、移動しながら。
ズリスワッチ…じわりじわりと上がって来る、にじり上がる。
スリキリ……きりきりのはかり方、きちんと性格に。
ズリオテチ……ずべり落ちて、滑ったひょうしに落ちて。
ズリヨル…少しずつ動いている、微動しながら、移動に注意。
ズリガキ……動きはじめに、動きだした途端に、動きに注意。
ズルズル……急に動く、急に滑る、急に解ける、など注意。
スリヘル……履きすぎて減ってしまう、片減りする個性も。

す　ズリーイ……悪い魂胆、誤魔化し性格、こまかい計算性格。
ズリ……あちらの方向、方向、移動させる、方向を変える。
ズリクリ……すべったり転んだり、乱雑な遊びに戯れる。
スリムイチ…転んですって怪我をする、すり傷が絶え間ない。
スリヘッチ……履きすぎて減ってしまう、擦り合せて摩滅。
スル……すりまわす、すって細かくする、印刷、実行する。
スルンカ……しますか、実行に移す、はじめますか、即実行。
スルヤ……しますか、実行に移す、はじめますか、思い立つ。
スルコタ……しなくても、実行せずとも、そのままでよい。
スルンナラ……はじめるなら、実行には企画を、無駄なしに。

ズル……滑る、誤魔化して、移動している、用心しないと。
ズルズル……目的なしでは、企画は大丈夫、のめり込む。
ズルット……思わず滑って、予期なく滑る、軟弱な危険性。
スルナイイガ…するのはよいが、結果は大丈夫、心配なしか。
ズルリンコ…思わず滑って、のめり込みにご用心、油断大敵。
スルド……しますよ、はじめます、実行に、覚悟はよいか。
スルコター……しなくても、する必要はない、ままにして。
スルンナラ…はじめるなら、開始は慎重に、実行には計画を。
ズレメーゴツ……滑らないように、充分な用心を、滑り注意。
スレスレ…ぎりぎり、きわきわ、用心しないと、前後を考え。

スレレンゴツ……すれないようだから、するのは無理かも。
ズレチョル……異なっている、合い目が違う、異常な形態。
ズレタカ…微妙に移動している、隙間がある、修正しないと。
ズレタンカ……移動したらしい、微妙な誤差、隙間が出来た。
スレタンカ…すりましたか、すったなら、すれたら食べよう。
スレテン……すれても、すれたのに、すれただけでは。
ズローサ……ズロースは、幼女にゃズロースはかせて。下着。
スロードチ……する準備して、すりはじめよう、すりますよ。

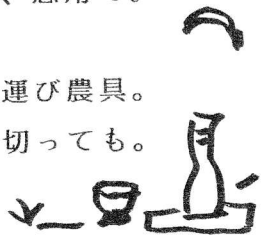
す　ズングリ……肥満体格、体調管理を、スリムにしないと。
　　ズンド……まったく、本当に、もう呆れるくらいに。

方言単語ん広がり『あ』から　『す…ン』マジで１７２２９語になりました。さて『わ…ン』まで　たどり着いたら　果たして幾らになるでしょうか……

せ　セアンヤクル…世話が大変、世話をしないと、甘やかして。
　　セアシイ……忙しい、多忙な、うるさい、自分でしなさい。
　　セアンシガイ……世話をするかいがある、世話が思わぬ。
　　セアガル……世話をよくしてあげる、世話が上手で。
　　セアラシ……小さな田や畑が荒れて、多忙で手がつかず。
　　セアシュ……忙しそうに、多忙な日々で、雑用が多くて。
　　セアデン……世話でもしていれば、世話をしてやらねば。
　　セアガリャ……面倒見がよいので、世話もしておけば。
　　セアテノモン……世話は上手にやれる、世話好きだから。
　　セイタガ……背が高くて、身長が高い人、のっぽさん。

　　セイチョケ…せき止めて、急がせておけば、閉めておけば。
　　セイショコ…清正公様のこと、通称の呼名、ニックネーム。
　　セイドマ……背の高さなどは、背が高いので目立つから。
　　セイタカノッポ…背の高い人、すぐ見つかる、目立つ身長。
　　セイタド…閉めました、閉めたから、締め切った、終わり。
　　セイトカタギ…背中につけて運び物の農具、担ぎ易いから。
　　セイグレ……背の高さぐらい、背の高さと変わらぬくらい。
　　セイチキタ……閉めて来た、せき止めた、急いで来たので。
　　セイチャレ…閉めてやれば、せき止めたら、急いであげて。
　　セイチョリャ……急いでおれば、閉めているよう、急用で。

　　セイタニカ……急いだのに、背中に当てる荷運び農具。
　　セイテン……急いでも、閉めても、締め切っても。



こぼればなし

『コカァ水がナガレヨランナァ』『ソウデ　チッタ　ヨコワセントナ』　バナナ、牛乳、卵、なんか病気ナッテン　メッテ買うちマジャ　モラエン　クエン　ノメンジャツタ。鶏がオッテン　卵は売っち銭セント　銭が　ソゲーイツデン　アルンジャネェキナ。

聞くンモイイガ　見ちオボイイ　ソレホウガ　ナンボ早ぅ覚ユルカン　シレン。ソンクレー　見るナァ　イツマデン　頭ェ残るもんじゃ。

コカァ…ここは。ナガレヨランナァ…流れていませんねぇ。ソウデ　チッタ　ヨコワセントナ…そうですよ　少しは　休ませないと。ナッテン…なつても。メッテ…めったに。マジャ…までは。モラエン…もらえないので。ジャツタ…でした。オッテモ…いても。セント…しないと。ソゲーイツデン…そんなにしないといつでも。アルンジャネエキ…あるわけでもないから。

昔の農家の人たちの経済は　厳しいのがあってうまく　英知を働かせアイデアを　閃かして暮らしていた。そこには常に健康にも気をつけ　無駄な支出はしない　収支バランスを考えた　生活上手でもあった。その心には支え合う　助け合う気持ちがあるから　常日ごろからの好誼　交流が鍵にもなっていた。

聞くンモイイガ…聞くのもよいが。オボイイ…覚える。ソレホウガ　ナンボイイカ…それのほうが尚よいから。イツマデン…いつまでも記憶に残る。もんじゃ…ものです。諺には先人の苦労から滲み出た　エキスが入っている。知っている事はみんなで共有する。それがお互いの利益になるが　現在はどうだろうか。欲もほどほどが荷物にも　無駄にもならんごたるが。

せ　セウチュイケ……背負ってゆくがよい、背中に担いで。
セエチョケ……閉めておきなさい、せき止めて、指して。
ゼエゼエ……咳き込んだ声、だみ声に、苦しそうな声で。
ゼエタカスンナ……贅沢はしないがよい、節約が大事。
ゼエコンナ……大根は、大根の取り入れ、大根利用の。
ゼエチョケ…抱いていなさい、出しておくこと、出して。
ゼエチャラン……出してやらない、抱いてあげない。
ゼエタカ……出したか、贅沢は、出しましたか、不経済。
ゼエリュ…出し入れを、行き来は、あまり寄りつかない。
ゼエチミリャ…出して見れば、抱いて見ると、得と見る。

ゼエテン……出しても、抱いても、広げて見ても、点検。
セオカルウ……背中が丸くなって、猫背になったような。
セオムキ…背中を向けて、あちらを向いて、反対向きに。
セオハル……背中が窮屈に、背中を大きく広げて。
セオシチョケ……世話をしなさい、世話が回ってきた。
セオスリャ……世話をしていれば、世話もしておくこと。
セオワタル……川の浅い所を渡る、浅瀬なら心配ない。
セオミワキ……瀬をよく見て、深みに入らぬように。
セオコシャ……背をこして見返す、瀬をこせば後は楽に。
セカルリャ…せかれると、せっかちに挑む、慌てると損。

セカンジョケ…急がずとも、閉めなくても、開け放題で。
セガワニャ……けしかけて、おどかすと、冗談に仕掛け。
セガウナ……冗談を本気にしては、おどかしては。
セガキャ…お施我鬼は、盆の行事のひとつ、供養の一つ。
セカレン…急がれない、閉められない、せき止められぬ。
セカンデン……閉めなくとも、急がなくても、施錠無用。
セカッタノン……閉められたのも、つまって流れが悪い。
セカニャ…急がねば、せき止めなくても、急用でなくば。
セカンド……急がないから、閉めないよ、開いているよ。

せ　セカセカ……気忙しくして、忙しそうな状態、落ち着かない。
セカツチョリャ……つまっているのでは、せき止められて。
セカッテン……せき止められても、つまっているから。
セキナリ……せいたと思ったら、せく側から水が流れる。
セキノニ……せいたと思ったらすぐ、せきとめたらすぐに。
セキャセンキ……せかないのに、せいてはいないのに。、
セキシチ……咳をしたと思ったら風邪か、咳は風邪の元。
セキウチュ……せき止め作業の、漏水防止の作業、積上げ。
セキトタテチ……石塔を立てて、墓石の整備、墓地の整理。
セキナンナ……急がなくても、慌てなくても、急ぐと危険。

セキュ……咳をするので、咳には用心を、風邪は万病の元。
セキュスル……咳をしている、咳が出ると、咳には用心を。
セキトミー……せき止めて水の流れを調整、水路の分岐点。
セキグレ……せきぐらいはと思わぬ、せきは分水の要。
セキヨル……忙しそうに多客がひしめく、多忙な店先。
セク……忙しく、多くの利用者が殺到、慌ただしい売り出し。
セクンナリャ……せくようなら、閉めるのなら、止めるなら。
セクナリャ……忙しくなれば、閉めるなら、せき止めるなら。
セクワリニャ……忙しい割には売れ行きが、大売り出しかも。
セクメーカ……忙しくはないよう、あまり雑踏でもないよう。

セクチャユウテン……忙しいと言っても、閉めると言っても。
セクナンカ…閉めるなんか、せき止めるなどは、忙しいよう。
セクトン……閉めるのでは、せき止めるのか、忙しそうな。
セクンカ……忙しいのか、閉めるのか、せき止めるのか。
セクナイイガ……閉めるのはいいが、忙しいのはよいが。
セクソベ…いそがしそうな側で、閉める側に、せきとめの側。
セクネキ…閉める側に、急がしそうな側で、せきとめの側に。
セクヤタ……忙しいひとはこちらに、閉める人はこちらから。
セクタイワン…閉めるとは言わないが、忙しいとは言わない。

せ　セクソベ……閉める側に、せきとめる側に、咳の出る側に。
セクノンコマル……閉めるのも困る、咳がでるのも困る。
セクマジ…閉めるまでは、せきとめるまでは、閉めたから。
セクニ……急ぐのに、閉めるのに、せきとめるので。
セクトキャ……閉める時は、忙しい時は、せきとめる時は。
セクンカ……閉めるのか、せき止めるのか、咳がでるよう。
セケシコ……せきとめられるだけ、閉められるなら。
セケ……閉めなさい、せきとめて、戸締まりをよくして。
セケヨセタ…せきとめに間にあった、しめるのに間にあぅ。
セケメーチ……閉められないかも、閉められてよかった。

セケタカ…閉められた、せき止められて、うまく止まった。
セケチイイせ……きとめられてよい、閉められてよかった。
セケルリャ……閉められるなら、せき止められてよかった。
セケレタカ……しめられたよう、閉めて安心、せき止めた。
セケチャ…せき止めるので、閉めておかないと、閉まった。
セケテン……せきとめても、閉まっても、確認をして。
セケンノクチニャ…世間の口煩く、人の口には戸立てれず。
セケタマジャ……せきとめたまでは、閉められたので。
セケリュウチ……せきとめられたので、漏水心配なし。
セケコナシャ……せきとめが出来れば、これで一安心。

セコーセコーチ……落ち着かぬ性格の、きょろきょろ人間。
セゴシュ……瀬をこすような成果、瀬さえ越せば万歳です。
ゼコゼコユウ……喉の異常か声変わりが、風邪気味なのか。
セコドチ…忙しいので、閉めようと思って、慌ててては危険。
セコウモンカ……慌てたりしたら失敗、閉めるようなら。
セコセコ……こせこせした性格、落ち着きのない人間は。
セコーナラ……急ぎの場合は丹念に、慌てて失敗のみやげ。
セコーチョル……忙しさが競合して、慌ただしい時は用心。
セコブガ……背にこぶが力こぶか、筋肉労働の賜物か。

せ　セコーモンナラ…閉めてしまえば、閉めたなら、閉めるよ。
セダコー……中を高くして、出来るだけ高く、高いがよい。
セダビー…背中が寒いから、寒さがこたえる、背中の寒さ。
セサブ……背中が寒いような、背中が急に寒くなり。
セサム……背中が妙に寒さをまして、背中の寒さがこたえ。
セザケー……見たより背が高くて、大きな男だこと、大男。
セサミー……背中がひんやり寒く、背筋が寒くなって。
セザムジ……背中から冷えてくる、背中がむずむず寒い。
セサモナル…背中からの寒さが、中の寒いのは風邪引きか。
セシナニ…したばっかりなのに、今終わったのに、済んだ。

セジ……背戸、背戸あいの風が、背戸風は寒さが厳しい。
セジカジュ……背戸風も使いようでは、背戸の風が役立つ。
ゼジンノサマ……善神様、耳が悪いときにお参り。、
セジチョケ……煎じて飲めば、煎じて使い分ける、煎じ薬。
セジレンカ……煎じられないか、煎じてもよいのでは。
セジラレン…煎じられないのでは、せんじてこそ薬効あり。
セジタテ……煎じましたよ、煎じて飲用する、煎じ応用。
セジドマ……煎じてこそ、煎じておけば間に合う。
セスジュ…背筋がこわばる、背筋の痛みから、背筋の鍛練。
セズシミー……背戸を閉めて、背戸風が入るので。

セズリャ……煎じたなら、煎じて使えば、煎じれば役立つ。
セズカジュ…背戸の風が大きな役割、背戸の風を利用する。
セズクリャ…背戸をくれば、背戸から来たら、背戸が通路。
セズデン……背戸でも使った利用方、背戸も使い様で。
セズラ……背中の面、背中から見たら姿、背広い畑。
セズロ……小高い岡の畑、広々とした畑、一面が畑の景観。
セズル……煎じて飲めば、煎じた薬は苦いもの、煎じる。
セズドマ…背戸などを走るひとたち、背戸は逃げ道勝手道。

せ　セゼユ……煎じて飲む湯、煎じて、煎じた薬や栄養飲料。
セセッタンカ……苛めたのでは、冗談にアシラッタのでは。
セセリツク……寄り添い戯れたがる、にじりよって来る。
セセリュ…せりついて相手をしてほしい、よりそって甘える。
セセロシイ……うるさい、迷惑に思う、わずらわしいので。
セセリオウチ……せりくりあって、戯れあう、仲良しの戯れ。
セセリグセ……戯れが好きな性格、すぐ寄り添いたがる。
セゼタ……煎じたから、せんじてあるので、煎じて準備。
セゼチ……煎じて準備した、煎じてあるから、煎じて待つ。
セゼトージ……煎じたくて、煎じるのが得意で、煎じだして。

セゾカジュ……背戸ん風を受けて、背戸風は気持ちがよい。
セゾンワキ……背戸の側に、背戸の周りの、背戸があるから。
セゾカルキー……背戸から通って、背戸に回って来れば。
セゾマジャ……背戸までは危ないから用心、背戸は狭いから。
セゾニャ……背戸には、背戸の周辺は狭いので、背戸は危険。
セゾジャキ……背戸だから用心して、背戸の周辺は狭くて。
セダカノッポ……背の高い人、大きな男、身長の高い人間。
セダケナ……背が高くて丈夫そうな体格、秀でた人格形成の。
セダコウジ……背が高くて頼もしい、背も高く奇麗な女性。
セダキャ……背だけは高いが少し細身、瀬だけは景観が抜群。

セダリャノメ…煎じられた飲み物だから、煎じたから飲用に。
セダッチョル……煎じられている、煎じてあるので。
セダタナ…煎じられたよう、出来たよ煎じ薬。
セチキ……切ない心境に、不幸に見回れて。
セチカロウ……切ないだろう、厳しい現実は。
セチー…切ない悲しい、不幸はいつ起こるか。
セチナギー……切ない辛さ、悲しい出来事。
セチーメニ……悲しい場面に、切ない思いの、突然の不幸に。
セチゲネェ……切なく辛い現実、不幸にさいなまされて。

ケーキ
ケーキ

東は胡麻鶴　西は詰　サノ西は詰　東西３里の　野津原村とサイサイ　野津原村。こげな唄い出しん　古い野津原音頭　婦人会ん人たちかる　せがまれち　作詞したようじゃが　曲は当時　なかなか流行した　昭和４年の　『紅屋の娘』の唄の　替え歌になるじゃろう。　中山普平さんがん曲。利用じ　盆踊りなんかにも　使いよったが　本格的な　会の使う唄としゃ珍しかった。

殿様時代の　野津原郷　サノ野津原郷　御茶屋の跡や　城の馬場　とサイサイ　城の馬場。
春秋賑わう　宇曾山　サノ宇曾山　霊験あらたな　虫封じとサイサイ　虫封じ。

胃腸によく　効く冷泉は　サノ冷泉は　湧いて尽きない　塚野の地　トサイサイ　塚野の地。
河鹿の声や　蛍がり　サノ蛍がり　流れも清き　七瀬川とサイサイ　七瀬川。

秋葉の山の　空高く　サノ空高く　功を語る　忠魂碑　とトサイサイ　忠魂碑。
広さも富も　人口も　サノ人口も　郡内一の　野津原村　とサイサイ　野津原村。

郷土を　愛せよ　村人よ　サノ村人よ　家業に精出し　勤しめよ　とサイサイ　勤しめよ。

こんあとに　チッタあったち　思うちょつたが　解らんもんじやが　こんごろアッチコッチじ　唄われよるなんか　いいもんじゃなぇ。デイケアーん合唱　なんと懐かしい風景。じゃき故郷はいいもんじゃなぇ。

楽しい笑いにゃ若さを　保つ秘訣かあるごたる。病気すりゃそこじ初めち健康ん　有難さが解るもん。

工夫ちゅうんは無限にあるもん　使わにゃ使わんでんいいがヒョイト　いい案が浮かぶと思わん　儲けにもなるもん。

竹が伸びすぎち邪魔になるが　ねぇのも殺風景じゃき　いい方法はち聞いたらいろいろ　教えちくれた。背たけほずになったら　自分がんてのとどくあたりを　ゆさぶっち揺らすと　頭がポキンと折れた。あとはそこに葉が広がっち　背たけは短く葉影はチャント出来た。

昔んしゃマヘビを見たら　三角頭ん首ねっこを捕まえち　そくう紐じ絞める。動かんごつなったら　ツグロにしち袋に入れ持ち帰る。生きている方法なら高く売れる。昔の銭取りはこげな知恵じ　うまい具合に銭取りが出来た。

草あくじ汚れた手は　カタバミを揉んで　そん汁で拭くと美しゅとれるらしい。

シビト草は火にサットあぶって　もみネバネバを　つけると傷が治る。ビガンハナの球根が　あるとモグラが寄りつかないとか。球根をすりつぶして　打ち身ゃ痛みに　塗ると傷がうすらいで　ゆうなるらしい。

考えられんことじゃが　戦時中は食料買いに　衣類が役立つありさまじ　取締りの警官に着ているものを　脱いでもいいからと　芝居まがいん度胸見せた。水枕に焼酎を入れて　かつぎ屋がバス利用で田舎に来る。狙いは衣類や食べ物　配給制度でヤミ買いしないで　死亡した人たちもあった。タバコの葉を股に挟んで　検査をくぐり抜ける　技法もあったらしい。生活ん為ん苦労が同じ人間同志じ　逃げる追いかけるの　知恵比べも今は昔ん物語。

★　八方だし…八方にまにあうごつ　合理的な旨味ん出し方。グラグラ煮たてち『ダシ』を　取る必要はねぇ。上手に取るにゃ　出させる時間を与えち　こす材料も協力しち　くるるもんで。

★　甘酒は…夏ん栄養薬　点滴と同じぐれん　効果があるもん。熱い茶は涼風を誘うき　熱い夏でん効果が　あるちゅうわな。

★　味は薄め…辛過ぎると大変じゃき　控えめじ調理しち　付け加えは後じ出来る。隠し味ん効果もあっち　明るく仕上がるもん。黒いなぁ敬遠さるるわな。

健康ん条件…睡眠は８時間が理想じゃが　最低熟睡なら５時間は。朝食は必ずとる、タバコは害になりそう、酒は適量がよい《個人差はあるが控えめに》、間食はしないがよく　よく咀嚼する。楽しく頂く事も。
肥満に配慮して　運動《少なくとも３０分以上》、早寝、早起きの励行、夜更かしはしない。快食、快便快寝。、

※…風邪を引かない　疲れを持ち越さない、運動を欠かさない。一日一笑を心がけ、笑顔と感謝で　自分の権利を生かす。健康の体には　健康の精神が宿る。松下ん幸之助さんな　金や財産をつぎ込んでんいい　健康を守りてぇもんじゃち。金さん銀さんも晩年にゃ『これからは老後ん為に　貯金せんと』ち　８８歳の時でん言いよったらしい。

とにかく心が豊かじ　それまじ世話になっちょる　ご恩返しする感謝ん気持ちがなにより。肩書きやら財産な　持っちゃいけんことでん　あるもんじゃきなぇ。使い方ぅ考えちぐあゆうな。

方言説明

９５Ｐ　こげな…こんな。せがまれち…無理に言われて。じゃが…ですが。殿様時代…肥後領地時代⇨江戸期間。虫封じ…子どもの怒りっぽい病気の予防。勤しめよ…精出して。チッタ…少しは。アッチコッチじ…周辺で。

９６ｐ　ヒョイト…突然に。ほずに…高さに。ゆさぶる…揺らして。マヘビ…まむし。ツグロ…ぐるっと丸くなる。シビトグサ…どくだみ。ヒガンバナ…万寿沙華。かつぎ屋…買い出し闇買い。

９７Ｐ　くるる…くれる。あるちゅうたなぁ…あるからと言っていました。じゃが…ですが。守りてーもんじゃ…守りたいものです。せんと…しないと。ぐあゆうな…具合よくね。

お宮の鳥居にゃゆう　小石が上がっちょる。小さな石を投げ揚げて　上に乗ると『いいことがある』と　よく言われち　試したもんじゃつた。それも人の知らぬ間に　こそっと投げ揚げる心情。それもゆう解る。知られたくない心　落ちたらと思う心情。きっと乙女は小さな胸に　願い込めて投げ　揚げるんじゃろう。。

宇曾岳神社ん側に３羽ん小鳥　遠方かる来たんか　年中寄り添っち暮らしよる。お参りした人たちが　『なんちゅうエエラシイ』相手ん鳥も　そげー思うたんか　『チチ、チチ』と　愛敬ゆうもぅ相手をしよった。帰り道じ気をつけち　下りよるとコンメーンガ傷おぅち死んじょる。側じ親鳥じゃろうか　ムゲネーチ思うた　そげなしがそっと　拾いあぐると片隅ん くぼみに　埋めちゃつた。

社会の片隅じゃ何が起こり　何がどげなっちょるんか　解らんが奇特な人たちん　優しい扱いに小鳥はきっと　感謝しちょろう。

方言説明

９５Ｐ　こげな…こんな。せがまれち…無理に言われて。じゃが…ですが。殿様時代…肥後領地時代⇨江戸期間。虫封じ…子どもの怒りっぽい病気の予防。勤しめよ…精出して。チッタ…少しは。アッチコッチじ…周辺で。

９６ｐ　ヒョイト…突然に。ほずに…高さに。ゆさぶる…揺らして。マヘビ…まむし。ツグロ…ぐるっと丸くなる。シビトグサ…どくだみ。ヒガンバナ…万寿沙華。かつぎ屋…買い出し闇買い。

９７Ｐ　くるる…くれる。あるちゅうたなぁ…あるからと言っていました。じゃが…ですが。守りてーもんじゃ…守りたいものです。せんと…しないと。ぐあゆうな…具合よくね。

お宮の鳥居にゃゆう　小石が上がっちょる。小さな石を投げ揚げて　上に乗ると『いいことがある』と　よく言われち　試したもんじゃつた。それも人の知らぬ間に　こそっと投げ揚げる心情。それもゆう解る。知られたくない心　落ちたらと思う心情。きっと乙女は小さな胸に　願い込めて投げ　揚げるんじゃろう。。

宇曾岳神社ん側に３羽ん小鳥　遠方かる来たんか　年中寄り添っち暮らしよる。お参りした人たちが　『なんちゅうエエラシイ』相手ん鳥も　そげー思うたんか　『チチ、チチ』と　愛敬ゆうもぅ相手をしよった。帰り道じ気をつけち　下りよるとコンメーンガ傷おぅち死んじょる。側じ親鳥じゃろうか　ムゲネーチ思うた　そげなしがそっと　拾いあぐると片隅んくぼみに　埋めちゃつた。

社会の片隅じゃ何が起こり　何がどげなっちょるんか　解らんが奇特な人たちん　優しい扱いに小鳥はきっと　感謝しちょろう。

あとがき

宇曾山物語も２回目になり　清水で喉を潤す風情が　若い娘の肌まで白く輝くようです。故郷の味にはローカル食が　宝の玉手箱には影にそっとされた　そんな話題に陽をあててあげたい。女性の底力の忍耐努力がやがて　実る人間社会の妙薬にでも。民話伝承から子どもの世界にと　心が豊かになれば　故郷の振興発展にも。

２４年度から急きょ年２回発行に　愛読者の熱心な支えが励みにもなって　少ない会員が生きがいに　余暇を利用した調査収拾は２５年余り取り組んでよかったと　自負もています。これも愛読者があっての継続　今残せたから野津原の　方言は使わなくても記録に残り　これから何年か先　いや使わないかもしれないが　いつかきっと脚光浴びる日もあると　信じています。

毎回多くの皆様の支援　助言などがあって　目新しい話題や古い記録が　交差しながら常に湧き出る　故郷の夢とロマンの世界。そこに脈脈と受け継がれた　故郷の歴史が文化が　そっと存在していたのです。あげな話こげな話　そんな話題が交わせる　幸せ人生は先人が残して　くれたのです。

方言でないものや　卑下する言葉　使われない言葉　差別用語もありますが　方言集の性格上入れてあります。のでご了承ください。又全くの素人集団ですので　お許しの程を。そんな取り組み発行に　暖かい支援声援をお寄せくださる　多くの皆様に重ねてお礼を申し上げます。感謝感激です。ありがとうございました。

時には年号誤差や　西暦や明治、大正、昭和、平成などと　時代表紙が幅が広くて　間違いもあると思いますが　悪しからずご理解の程　よろしくお願い申し上げます。誠にありがとうございました。次号も是非ご笑覧の程を　お願い申し上げます。お礼まで。

伝言板
No.２３

平成２９年４月発行予定です。

主な内容ジャンル別

あげな話こげな話
ふるさとの味
宝の玉手箱
方言単語　『せ…ッ』
女性の底力
五助『宇曾山物語』
子どもん世界
民話と伝承
あげな話こげな話
方言単語
ちょつと一服
方言単語
あとがき
伝言板

★　シリーズ『五助　宇曾山物語』は　いよいよ中腹の参道を　あえぎながら　登る道中で古い話　新しい話が交差しながら　眺望に目を　風の奏でに耳を　なにか囁くような神の声に　心傾けて里の娘と　五助の道中は半分にたどり着く。ふり仰げば松の梢に　白衣の天狗がふっと浮かんで……お楽しみに。

野津原方言調査会　大分市竹矢
☎　０９７＝５８８＝０５７２
事務局　５８８＝００９２